

済生

SAISEI

THE NEWSLETTER of
Social Welfare Organization
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

No.1157

「NEWSな済生人」

「支え合う」を当たり前——
熊本福祉センターが
熊本病院と共に歩んだ20年



11

November 2025

<https://www.saiseikai.or.jp>

社会福祉法人

恩賜
財団

済生会

済生会の 不易流行論

理事長 炭谷 茂
Shigeru Sumitani

206

ホームレス問題の転機

全国の済生会支部、病院等ではホームレスの支援活動を行っているが、ホームレス問題は、時代の変遷とともに変化している。

27年前、大阪市西成区天下茶屋で社会福祉法人「大阪自強館」の吉村毅^{よしむら たけみ}理事長が、思い詰めたような表情で厚生省社会・援護局長だった私を訪ねてきた（本欄の省庁名はいずれも当時）。

吉村さんは、生活困窮者のための救護施設を経営され、いつも現場の視点からの得た助言をしてくれた。

「大阪市ではホームレスが急増し、市だけでは無理、国が乗り出さなければ」と大阪城や釜ヶ崎の写真を示しながら話した。そのころ東京でも公園や河川敷でホームレスが建てたブルーテントが目立つようになったが、

私は、危機感までは持っていなかった。ベテランの社会事業家である吉村さんの説明は、説得力があった。すぐに大阪市に向いたが、凄まじい状況に驚くばかりだった。

戦後一貫した国の考えは、「ホームレス問題は、自治体が固有事務として責任を持って対処する」というものだった。国は社会から評価されない面倒な仕事から逃げたいという本音が透けて見えた。

大阪市の状況では、全国から集まった膨大な人数のホームレス対策を一自治体に委ねることは、行政能力を超えるし、財政負担の公平性からも問題である。国が責任を持たなくてはと確信した。

しかし、ホームレス問題には、就労対策を所管する労働省、公園や河川敷を管理する建設省などほとんどの官庁が関与する。厚生省の一局長の力では、霞が関の縦割りの壁を崩すことは容易でない。

詳しい経緯は省くが、人権問題に理解がある野中広務内閣官房長官に会った。「ホームレス問題は、私の局が責任を持って

全面的に担当しますが、内閣から各省庁に指示していただくのと前進しない」と訴えた。その場では野中長官は、反応がななく、がっかりした。しかし、翌日、国会の質問に答えて、従来の国の方針を転換し、国がホームレス対策を推進すると明言された。この発言を契機に国の予算措置が講じられ、ホームレス自立支援法の制定へと一気に進んだ。

☆ ☆

この政策の効果は絶大だった。3万人だった野宿生活者は、今では3千人を切っている。ホームレス問題は、社会にはもう終わったような空気が漂っている。

確かに野宿生活者は少なくなったが、住まいがないため、ネットカフェやファーストフード店で夜を過ごす人、実質的なホームレスが増加している。東京都の調査で推計すると、全国に4万人くらい該当者がいる。

これらの人たちは、健康、仕事、差別、孤立などの問題を抱えている。この新しいホームレス問題に政治や行政が、関心を向けるべきである。

不易流行（ふえきりゅうこう）：不易は永遠性、流行はその時々の新風をいい、芭蕉が俳諧思想を表現するときに用いた。済生会は長い歴史で醸成された価値を大切に、時代の変化に適応していかなければならない。



なでしこファーム

熊本、松山から「愛」をお届けします！

熊本済生会ほほえみ「パン工房ふわり」
熊本県熊本市南区内田町 3560-1 Tel: 096-223-3428

松山ワークステーション「なでしこ」
愛媛県松山市東山町 143 番地 Tel: 089-916-6959

焼き菓子のネット通販店「なでしこファーム」

なでしこファームは、済生会の就労継続支援事業所で作ったお菓子を販売するネット通販店。熊本・済生会ほほえみと愛媛・松山ワークステーションが出品し、済生会のホームページ上で営業中です。商品のクッキーやケーキは、障害者が街のお店に追いつき追いつきと、一生懸命つくりました。どうぞ一度、その思いも一緒に召しあがってみてください。お中元、お歳暮にも最適です。店主敬白



◆クッキー（左上から時計回りにプレーン、マーブル、レーズン、紅茶）

♥ギフトボックス（クッキーとパウンドケーキの詰め合わせ）

♣くまドレーズ（くまの形で、手軽に食べられる大きさのマドレーズ）

▲元祖クッキー（片栗粉を使ったサクサクとした歯ごたえが人気）

済生会のトップページからアクセス!!
<https://www.saiseikai.or.jp>



ホームページには、他にも魅力いっぱい商品が。工房で、お店で活躍するスタッフの様子も。ぜひご覧ください。



topics★コンシェル



「済生」のエンジン（原動力）は後半にあり!!
質・量ともに充実の、済生記者たちが投稿する
記事は宝の山、原石の煌めきを放っています。
済生コンシェルジュがおすすめする記事を
ご紹介します。

①〈長野〉特養きしでは佐久の秋の風物詩「小鮎の甘露煮」を入居者と職員で手作りし、地域の伝統の味を楽しみました。②「私たちの役割は、子どもと児童相談所をつなぐ“橋渡し”です」。〈埼玉〉川口乳児院で働く里親支援専門相談員の横山恭子さんが里親制度についての思いを語ります。③病気の子もたちがメタバース上で自身のアート作品を展示するプロジェクトを香川県病院が香川大学・NPO 法人と共同で行ないました。

The latter half of this magazine is covered with a rich forest of treasurable articles. What will you discover there?



表紙のことば

澄んだ空に現れる冬の気配と風音

表紙イラスト 久保田真由美 Mayumi Kubota

夕暮れ、辺りが薄暗くなり澄んだ空にはきれいに星が瞬き始めます。寒さを感じ足早に帰途につく頃、鎮守の森の静けさの中、奇妙な声とともに高い枝から何か白いものが飛来し横切る。ふいに出くわした

ら、妖怪だ、一反木綿だと思うでしょう。でもそれはきっとムササビです。日が短くなり、これから冬に向けてはムササビの観察シーズン。晴れていて風がなく月のよく見える夜が狙い目です。



済生

SAISEI

CONTENTS
NOVEMBER, 2025

NEWSな済生人

「支え合う」を当たり前に——
熊本福祉センターが
熊本病院と共に歩んだ20年
熊本病院 院長

中尾浩一さん

熊本福祉センター 所長

宮川栄助さん

済生会交差点

《回復期スタッフの士気向上》「盛り上げtai」
が病棟の空気を前向きに変える!／《「生活
の場」である特養での看取り》多職種連携
と地域連携により「その人らしい」最期を
実現する

済生会フェア 〈大阪〉吹田病院 18
〈奈良〉御所病院 22

巻頭コラム 済生会の不易流行論

ホームレス問題の転機 理事長 炭谷 茂 03

topicS★コンシェル

表紙のことば 久保田真由美 05

ソーシャルインクルージョン

第25回CRCと臨床試験のあり方を考える会議2025 15

20

この人 板垣李光人 24

口福にっぽん 吉井省一 26

だれでもかんたん てづくりおもちゃ
いまいみさ 28

TOPICS 30

載々、大雑報 78

題字協力：石飛博光
アートディレクション：OVO INTERNATIONAL

気持ちのいい挨拶が病院の空気を変える 現場で見つけた、共生社会のヒント

熊本病院 院長

中尾浩一さん

熊本福祉センターは昨年4月に創設20周年を迎えました。「住まい」と「就労」を両軸とした障がい者支援を継続する中で、鍵となったのは熊本病院との連携でした。両者はどのように歩みを進めてきたのか、また、障がい者への理解について、熊本病院の中尾浩一院長と熊本福祉センターの宮川

栄助所長に聞きました。

(本部広報課長 河内淳史)

——熊本福祉センターは設立当初から利用者に「住まい」と「就労」を一体で提供しています。改めてその理由を教えてください。

宮川 当センターが2004年4月に前法

※写真撮影時のみマスクを外しています

「支え合う」を当たり前—— 熊本病院と共に歩んだ20年

熊本福祉センターが

熊本福祉センター 所長

宮川栄助さん

人で37%増加しました。開設から20年がたち、現在は18歳から70歳を超える利用者までと年齢層が幅広くなっています。同時にグループホームでは高齢化が顕著です。医療的ケアを必要とする場面も増え、スタッフの負担も大きくなっています。

——創設以降、熊本病院とはどのように連携を取っていたのでしょうか。

宮川 センター開設の資金拠出は熊本病院からで、初代所長ならびに管理者、事務職なども熊本病院から派遣されました。今でも運営ができているのは熊本病院の支援のおかげです。

——現在、熊本病院関連の就労継続支援の事業はどのようなものがありますか。

宮川 クリーニング工場では熊本病院とみ

すみ病院で使用するユニホームやシーツのクリーニングをしています。また、熊本病院の管理棟の清掃や、院内のカフェでパンの製造・販売を行なっています。利用者にとって就業場所の確保ができていたことが連携の一番のメリットだと思います。

——現在の形に行きつくまでは一筋縄ではいかなかったと想像します。

宮川 一番苦労したのは、05年に当時運営していたくすり工場（卸先が経営難に陥り閉鎖することになったこと）、障害者自立支援法から障害者総合支援法へと制度改正された12年から13年にかけてです。当時のセンター職員が知恵を絞って、くすり工場の代替となる事業を考え、事前に北海道にあるクリーニング施設に見学に行



「かがやき」の利用者と職員が朝礼時に行なうストレッチ。心も体もリフレッシュできる



地元イベントには「ほほえみ」が運営するパン工房ふわりも出店。パンや焼菓子を販売した

人から事業継承した頃、現在のグループホーム事業にあたる「住まい」の支援は、入所授産施設と通勤寮（障がい者のための自立訓練施設）というスタイルで提供していました。そこからグループホームの新設や増築をしていきました。その後、12年の制度変更に伴い、就労継続支援事業所（ウイズ、ほほえみ、かがやき）とグループホームの併行利用ができるようになったことで、住まいと就労をセットで提供することが可能になりました。

——利用者にとって安心だと思います。

宮川 当センターでは親亡き後のことも考慮し、利用者が自立して生活しながら就労できる環境が重要であるという指針を定めています。

——開設当初から現在まで、利用者の変化

はいかがでしょうか。

宮川 04年の年間利用者延べ数は7万8200人でしたが、23年は10万7000

熊本福祉センターの利用者も チーム医療の一員

社センターの利用者がユニホームをクリーニングしていること、院内で同じ場や時間を共有することで共生社会を実現していることは非常に意義があることだと思えます。

中尾 国が定める障がい者の雇用状況（法定雇用率）を遵守するだけでなく、障害があってもできる範囲で仕事をして誰かの役に立っているという意識を持つことが大切なことだと感じています。

——ユニホームのクリーニングをしている熊本福祉センターの利用者もチーム医療の一員でしょうか。

中尾 そうですね。清掃にしても、カフェでの対応にしても本当によくやってくれて



グループホームで実施したパーティー。たこ焼きとベビーカステラのいいにおいが部屋いっぱいに広がった



今年4月にリニューアルオープンした「ウイズ」のクリーニング工場。従来の1.8倍の洗濯物の処理が可能になった



看護師が支援員に尿道カテーテルを挿入している利用者の畜尿バッグ排液手順を説明



児童発達支援センターなどしこ園の防災おさんぽ。訓練では子どもたちが普段行き慣れない場所を過ごす経験を重ねる

利用者の高齢化という課題に 医療と福祉の連携を深める

つたと聞いています。

——ここからは中尾院長にも加わっていた

だきます。熊本福祉センターで「医療の力」が必要になるのはどのようなときでしょうか。

宮川 高齢者は複数の疾患を抱えている人が多く通院回数が増えています。グループホームでは65歳以上の利用者の割合は徐々に増加、直近の10年で全体の3・4%（3人）から20・3%（16人）と高齢化が進んでいます。そのため、常勤の看護師を4人配置するなどして対応しています（本誌2025年7月号・P10参照）。

——その看護師は熊本病院の職員ですか。

宮川 この看護師は熊本福祉センターで採用していて、常勤で働いています。

中尾 現時点では当院から看護師を派遣していませんが、ゆくゆくはキャリアアップの一つの選択肢として福祉センターで勤務してもらおうのもよいかと感じていますし、障がい者への理解というのもあると思います。

——熊本病院では障がいがある患者への対応についての研修はあるのでしょうか。

中尾 障がい者施設ではないのですが、当院では2040年問題（高齢化により労働力人口が急減すること、日本社会全体が直面する問題）に向けて、19年から看護師が高齢者施設での研修を行なっています。ケア（Care）の頭文字をとって



「Cナース」と呼んでいます。入院前から退院後までの支援、地域のケアマネジャーとの情報共有などの役割があります。

——なぜCナースの育成を？

中尾 高齢者の生活の場を知ってもらうことが目的です。今年4月の時点で136人を育成しました。同じく「生活の場を知る」という意味ではこれからますます高齢化が進むであろう障がい者施設での研修があってもいいかもしれません。

——高齢化やさまざまな社会問題に向けて今から準備していると。

中尾 普段どのような生活をしているのか。患者さんの背景を知る看護師を育成することは済生会の理念にも通ずるものがあります。救急で運ばれた患者さんの中には、例えば貧困や障がいがある患者さんの場合、当院では患者さんの個別性を考慮した入院支援ができるCナースの育成にも注力しています。

病院は「共生社会」の実践の場 挨拶がなぐ温かい関係性

——熊本福祉センターの利用者が病院で働くことのメリットを教えてください。

宮川 安定した収入を得て、地域社会で働き貢献するということは、彼らの生きがいにもつながります。一方で病院職員も、福

います。あとは挨拶が素晴らしいですね。

——挨拶ですか。

中尾 当院の予防医療センターのレストランにも熊本福祉センターから就職した2人がホールスタッフとして働いています。受診者が健診帰りに食事をするのですが、その方々からも「挨拶がいい」とおほめいただいています。

——急性期病院という一刻を争うような職場だからこそ障がいのある利用者とのコミュニケーションがほっと一息つける時間にもなっているのでしょうか。

中尾 そうですね。

宮川 いいことはかなりではなく、過去には清掃をしている利用者が勝手に管理棟から文房具を持ち出したことがありました。悪気があるわけではなく、そういう「特性」ととらえていますが、そのようなことが起きたからには本人を病院業務から外さざるを得ません。それでも院長はじめ、職員の方々は変わらず当センターの利用者を温かく見守り、積極的に関わってくださいしています。

——同じ済生会の病院だからこそ、そのあたりの理解があると。

【取材を終えて】

熊本病院のベーカーリー「ふわり」。ここ

の塩バターパンは特におススメ！少し塩味が強めなのがおいしい。何より店員さん



宮川 クリーニング工場をリニューアルした

ので地域の方々に向けたオープンファクトリーをしたいと考えています。そのうち熊本病院の職員向けにも企画できればいいですね。

中尾 地域に根差すと言うのは簡単ですが、実践するためにはそのように実際の活動を見せよう、知ってもらいたいことだと思います。安心にもつながりますね。

（熊本福祉センター利用者の）清々しい接客を受けるために毎回立ち寄ります。

（河内淳史）



交流・座談会には看護師や作業療法士、理学療法士、MSWなどが参加。多職種で連携を深めた

現在は私と看護師2人が中心となって活動しています。昨年から

「若手が盛り上げる活気のある病棟、さまざまな分野のことをみんなで学び、患者さんに還元していこう」です。

主な活動は勉強会の企画・運営で、2カ月に1回のペースで開催。参加者は回復期リハビリテーションに関わる職員（看護師、セラピスト、MSW）がメインですが、職員誰でも幅広く参加可能で毎回25人程度が参加しています。多種多様な見識を得るため、これまで重度訪問介護事業所、就労移行支援事業所、訪問看護ステーション、有料老人ホームのスタッフ、福祉機器の取り扱い業者の方々などをゲストとして招いています。

勉強会のゴールは社会資源を「知らないければいけない」ではなく、「知っていたらいいな」。スタッフの誰かが情報を知っているという低めのハードルに設定し、それがコミュニケーションのツールになり、退院支援に生かせることを期待しています。



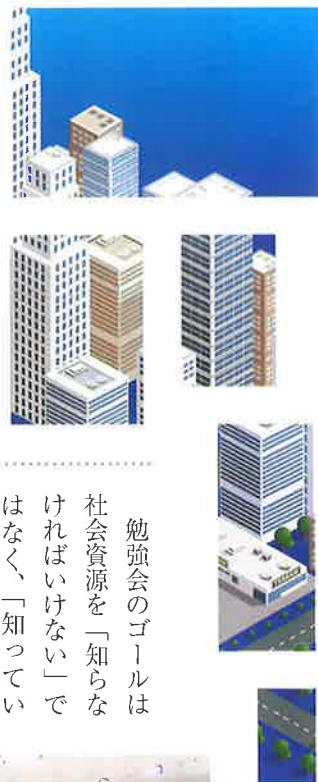
「盛り上げtai」は回復期リハビリテーションに関わる多くの職員から認知され、活動の幅を広げている

職種を超えた交流が育む
チームとしての一体感

現在は退院患者の振り返り症例検討会や、訪問診療専門医を



済生会にはたくさんの道があります。道はどこかの交差点で交わり、離れていきます。そして経路は異なっても目的地はみんな同じ。「笑顔」です。



勉強会では、株式会社モリトローを招いて介護リフトの使用方法について学んだ



今年6月の勉強会には40人が参加。皆真剣な表情で講義に耳を傾けた



「盛り上げtai」が 病棟の空気を 前向きに変える！

回復期スタッフの士気向上

〈滋賀〉守山市民病院
社会福祉事業室課長・
盛り上げtai隊長
平泉昌輝



筆者の平泉さん

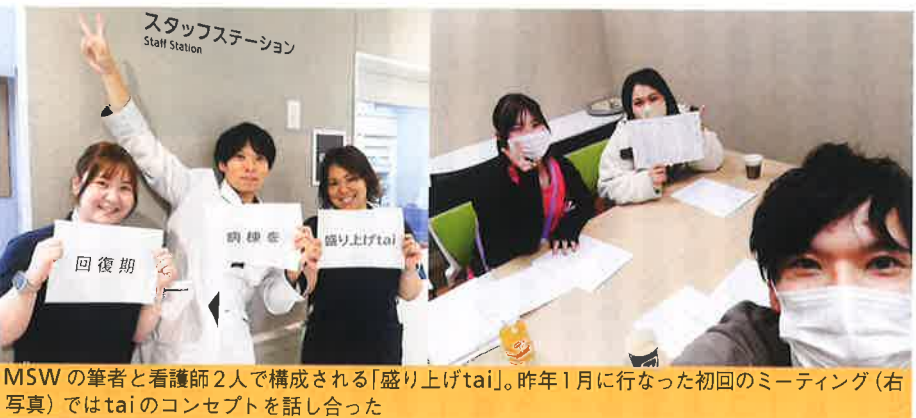
当院は2018年4月に済生会に経営が移行。回復期機能を診療の柱とするため、回復期リハビリテーション病棟とリハビリテーションセンターを有する新館を建設し（20年4月完成）、病床を再編しました。現在は199床のうち100床が回復期リハビリテーション病棟となっており、リハビリテーションが必要な患者さんの地域・社会への復帰に向けた退院支援・調整に日々尽力しています。

回復期の病棟では患者さんたちが日々リハビリテーションに励んでいます。彼らが前向きに取り組むためには、まずはスタッフが明るく活気あることが必要だと考えました。

回復期診療のゴールは治療のみではなく「患者さんの地域・社会への復帰」です。患者さんのゴールに向けて、多職種が一

私自身はMSWとして、当院の済生会移行と同時に入職。もともとは滋賀県済生会内の急性期病院（滋賀県病院）に勤務していましたが、いったん離れ、私立病院の回復期病棟で数年間を過ごした後、縁があって済生会に戻ってきました。

当初は、新病棟立ち上げプロジェクトのメンバーに入り、回復期病棟の運営経験を生かして運営の骨格を作ることが私の役割でしたが、あるときふと「これから病棟を運営していく中で、現場スタッフのモチベーションを上げるにはどうしたらいいんだろう？」と思いました。それが「回復期病棟を盛り上げtai」の原点です。



MSWの筆者と看護師2人で構成される「盛り上げtai」。昨年1月に行なった初回のミーティング（右写真）ではtaiのコンセプトを話し合った

丸となるためには、カンファレンス以外にもスタッフ同士のコミュニケーションが重要になります。

「次のtaiはいつ？」
職員からの評判も上々

初めは私一人で勉強会や座談会を企画・運営していましたが、



左から永原聡さん、安原邦子さん、遠藤百虹さん、中出たけみさん、事務長の中野治昭さん、
庄長の松並睦美さん

多職種連携における各専門職の役割や思い



生活相談員の遠藤百虹さんは、本人・家族の不安や希望を丁寧に聞き取り、看取りケアの内容について詳しく説明。スタッフへの情報共有もスムーズに行なえるよう努めている



安原邦子さんはケアマネジャーとして本人・家族が希望する最期のためにケア内容を多職種と調整。管理栄養士としては、本人・家族の「食べたい」「食べさせたい」思いを尊重した支援に加え、五感に働きかけるケアを心がけている



看護師の中出たけみさんは、看取り期での入居者の身体的・精神的な苦痛を緩和し、穏やかに過ごせるように支援。「本人や家族と密にコミュニケーションをとり、最期まで共に支える姿勢を大切にしています」



介護福祉士の八尋拓馬さんは、看護師と連携し、入居者の状態変化を随時共有してケア内容に反映。「特に看取り期には入居者を『決して一人にしない』意識を全スタッフに徹底しています」と話す

組織全体で培われた 看取りケアのノウハウ

淡海荘が15年にわたり看取りケアを行なう中で蓄積してきた

が連携し、入居者の「その人らしさ」を尊重した看取りケアを提供。各職種がそれぞれの専門性を生かした視点で役割を担い、きめ細やかな支援を行なっています。

ノウハウの一つが、隣接する滋賀県病院との強固な連携です。嘱託医が同院医師であることはもちろん、同院から移ってきた入居者の情報は担当していた医師・看護師などから直接聞きとれるため、家族の意向や本人の容態を踏まえた施設での過ごし方が提案できます。

また、急変時の対応指示を事前に医師から受けており、夜間などに入居者の容態が悪化した場合も迅速かつ適切な処置が行なえます。これも日々病院と密に連携している淡海荘ならではの強みです。

現場での対応もこの15年で大きく成長しました。2010年の看取りケア開始当初は、介護職の不安解消とケアの質均一化のため、食事量・排泄回数・ケア内容などを細かく記録する巡回チェックリストを運用。しかし、日々の話し合いや情報共有、継続的な学習を重ねた結果、介護職全体の意識が向上し、今ではチェック項目が少なくなっても質の高いケアができるようになりました。



淡海荘は県下初の特養として1967年、滋賀県南部の栗東市に開所。滋賀県病院や老健、看護専門学校に隣接する

「生活の場」 である 特養での看取り

〈滋賀〉
特別養護老人ホーム
淡海荘

多職種連携と地域連携により 「その人らしい」最期を実現する

これまで「看取りケア」といえば医療機関で行なうのが一般的でしたが、近年は特別養護老人ホーム（特養）での実施も増えています。〈滋賀〉特養淡海荘では、多職種連携と地域連携を通じて、特養での看取りケアを提供するとともに、全国でも珍しいショート

ステイや在宅での看取りもサポートしています。同施設の取り組みは、看取り介護加算が2006年の介護報酬改定で創設されたことに伴い、2010年から本格化しました。

特養での看取りの最大の利点は、入居者が長年生活してきた「生活の場」で最期を迎えられること。病院での看取りと異なり、住み慣れた空間で「その人らしさ」や「好きだったもの・こと」に寄り添ったケアを提供することが可能です。また、自宅と違って多様な専門職が身近でサポートする体制がとれることも、入居者や家族の安心につながっています。事務などを担当する課長の永原聡さんは「近年では入居者の約90%が淡海荘での看取りを希望しています」と話します。



交流会企画の「アナタが選ぶ〇〇賞」で菊地克久診療部長（写真左）がMVP賞に選ばれ、表彰

招いた勉強会を計画。ほかにも回復期病棟に関わるスタッフを交えた交流会を企画し、100人弱が集まりました。皆さんの普段見られないオフの姿を見ることもでき、職種を超えて大いに盛り上がりました。

「隊員」の島元さつきさん（看護師・3病棟）は「盛り上げ」の活動がスタッフのモチベーションアップにつながったり、良いコミュニケーションの機会になっている」「荒川桃香さん（看護師・2病棟）も「回復期病棟の醍醐味を味わえてよかった」と言います。

病気の子どもたちと共に 病室から世界へ ワンダーメタ美術館に 約1000人



左から吉田ゆかりさん、川口幸穂医師、岸谷蘭丸さん、小西行彦医師

香川県済生会病院

当院小児科・川口幸穂医師、香川大学教育学部准教授・小西行彦医師、長期入院児とその家族を支援するNPO法人「未来ISSUEY」代表理事・吉田ゆかりさんにより結成された「WonderMeta（ワンダーメタ）」が開始しました。

このプロジェクトは、子どもたちが自由にアート作品を制作し、メタパース上の美術館で展示することを目的としたもの。特に小児慢性特定疾病を抱える子どもに焦点を当て、孤立せずに病室や自宅から創作・交流可能な「ワンダーメタ美術館」を開設しました。



第2回メタパース美術館開館に向けてC.F.実施中

9月28日、高松市丸亀町壱番街前ドーム広場でリアル展示会を開催し、約1000人が来場。病気と向き合う子どもたちが自由な形で「空想のいきもの」を表現した原画約60点が並び、公式アンバサダーの岸谷蘭丸



さんが子どもたちを応援しました。
(済生記者 長尾美甫)

熊本地域生活定着支援センター

誰かと食事する楽しさを 冬を前に支援対象者とバーベキュー

10月17日に親睦会として、単身生活の対象者を招いてバーベキューを開催しました。今年で3回目の開催となり、少しずつ恒例行事となりつつあります。

今年昨年よりも多い13人が一堂に会し、穏やかな時間を過ごすことができました。また、10〜20代の参加もあり、例年より活気のある親睦会となりました。それぞれのペースで周囲の人と関わりながら、誰かと一緒に食事をする時間が皆さんにとって実りあるものであることを願います。

対象者の皆さんが、寂しさや虚しさを感じやすい冬の時期を乗り越えていけるよう、これからも一人ひとりに寄り添った支援を提供していきます。また、「春にお花見をしたい」といった声もちらほら聞かれますので、暖かい季節の行事も開催できるよう取り組んでいきたいと思っております。
(相談員 西村悠香)

ソーシャルインクルージョン

済生会ではソーシャルインクルージョン推進計画を実施しています。無料低額診療もなでしこプランも、この中に含まれます。だれも排除されないまちづくりを目指し、全支部・施設が1800の事業を展開します。



ショートステイは介護が必要な高齢者が短期間、施設に宿泊して介護や日常生活の支援、機能訓練などを受けられるサービス。看取りでの利用ニーズも増えている

近年取り組んでいるのが、ショートステイ（短期入所生活介護）における看取りケアです。淡海荘では「誰一人取り残さない」という考えのもと、看取りが近い状況でもショートステイの受け入れを断らないことを徹底。課長の永原さんは「ショートステイ利用者者の場合でも、かかりつけ医と連携し、利用者の状態を記した書類を作成してもらったことで、急変時でも済生会の医師が速やかに対応できる体制を整えています」と話します。

また、入居者や家族の中には、在宅での看取りを希望する声もあります。その場合は、滋賀県済生会内の居宅介護支援事業所、二つの地域包括支援センター、三つの訪問看護ステーション、訪問介護センターと連携し、実際に自宅での看取りケアを行なう家族やかかりつけ医へ情報を共有。自宅でも充実した看取りができるような体制を整えています。

看取りケアのニーズに応えるために

モデル。全国に広がり、より多くの高齢者が最期まで地域で安心して暮らし続けられる社会に期待が高まります。

本記事は済生会が運営するウェブサイト「ソーシャルインクルージョンを考えるWebメディア（シンク!）」で公開中の特養淡海荘の取材記事を再編集したものです。同ウェブサイトの記事もぜひご覧ください。



「近江富士」と呼ばれる三上山を望む田園地帯にたたずむ淡海荘



知る・見つける・支える
ソーシャルインクルージョン
Social Inclusion シンク!

<https://www.socialinclusion.saiseikai.or.jp/>



第4回栃木連携士会「つながっぺ」 具体的な事例を共有して支援の知見を深める

栃木県済生会



9月20日、第4回栃木連携士会「つながっぺ」を開催しました。今回は、昨年栃木県済生会で実施した済生会地域包括ケア連携士養成研修会の修了生を含む10人が参加しました。

参加者はそれぞれ、地域で支援に携わる立場から現場で直面する課題を持ち寄り、活発な意見交換が行なわれました。

話題の中には「身寄りがいない人が世話をしていたペットに

どのように対応すべきか」という現場ならではの悩みが、また、障がい者施設の利用者が制作した作品を高齢者施設で活用する取り組みの紹介や、刑余者支援の実際や課題についても話題に上り、支援の視点を広げる学びの時間となりました。

『「つながっぺ」では、今後も「私たちに何ができるか」を共に考え、支え合える地域づくりを目指して活動を続けていきます」と稲見一美地域連携課長（MSW）は話しています。

（地域連携課 川田綾香）



小樽で「暮らしたい」を感じる 地域共生イベントに延べ7000人

北海道済生会



9月7日、ウイングベイ小樽で「小樽暮らししたい共生フェス2025」を開催し、延べ7500人の市民が来場しました。本イベントは「地域共生」をテーマに、世代や立場を超えて人と人がつながる場づくりを目指しています。

小樽病院による健康測定会では、来場者が自身の健康状態をチェック。また、済生会ビレッジでは認知症カフェ「オレンジカフェ」が開かれ、住民同士の



交流が生まれました。

メインステージでは、地域の中学校・高校3校の吹奏楽部が演奏を披露。ラストは札幌国際情報高校による「ダンプレ」ステージで大いに盛り上がりました。

屋外のキッチンカーフェスでは、地元グルメを楽しむ来場者の姿が多く見られました。さらに、一番街4階の会場では小樽市によるゲームコーナーや相談会も実施。子どもから高齢者まで幅広い世代が参加しました。

（済生記者 清水雅成）

地域薬局で出前サロンを開催 住民の困りごとに寄り添う

〈栃木〉済生会高齢者ケアセンター



9月23日、日光市の地域薬局内で「いちごカフェ（出前サロン）」を開催しました。この活動は、県内約120の社会福



祉法人が地域住民の困りごとへの相談・支援を行なう「いちごハートねつと事業」の一環で、当センターからは看護師や管理栄養士など4人の職員が参加しました。

当日は10人が来場。事業所紹介のほか、介護全般や食に関する相談など、一人ひとりの困りごととに耳を傾け、専門職の視点からアドバイスを行ないました。

来場者からは「介護に困ったときの相談窓口ができた」と感謝の声を聞きました。

（特養とちの木荘 生活相談員・介護支援専門員 大嶋小貴子）

てよかった。今までは介護施設を知る機会がなかったが、詳しい説明を聞くことができて参考になった。是非施設見学に伺いたい」との声が聞かれ、いまだ多くの潜在的なニーズがあると感じました。

（地域連携課 川田綾香）



実施しました。本事業は、栃木ダルクに同居している人の健康管理、病気の早期発見を目的としています。

当院のWeb問診システムも活用し、今回は女性9人、男性27人の計36人が受診。身体計測や血圧測定、血液検査など基本的な健康診断とともに、生活習慣病の早期発見と健康維持に向けた助言を行ないました。

受診者からは「毎年受けてい

薬物依存症者回復支援施設の入居者36人へ無料健診

〈栃木〉宇都宮病院

薬物依存症者回復支援施設の入居者を対象に無料健診事業を

実施しました。本事業は、栃木ダルクに同居している人の健康管理、病気の早期発見を目的としています。

当院のWeb問診システムも活用し、今回は女性9人、男性27人の計36人が受診。身体計測や血圧測定、血液検査など基本的な健康診断とともに、生活習慣病の早期発見と健康維持に向けた助言を行ないました。

受診者からは「毎年受けてい



吹田病院 創立80周年記念の 済生会フェア



島 俊英 院長



ホスピタルパークで感動を



を融合させたコンテンツが好評を博しました。また、地域団体や個人によるステージ出演、マルシェやブース出店、認知症について学べる「さいすいオレンジカフェ」など、地域の皆さんの協力によって多彩な催しが実現しました。

同日、近隣で開催された「すいたオータムフェスタ2025」にも当院が出演し、「健康啓発BINGO」で地域の皆さんに健康情報を発信しました。当院のメインステージとフェスタ会場を中継し、二時間同時開催という新たなチャレンジにも取り組み、病院の枠を越えた連携を実現しました。

当日は、来場者の皆さんとのびきの笑顔があふれ、会場全体が温かな空気に包まれていました。迎える側の職員やスタッフも、準備や運営を真剣に、そして楽しそうに取り組んでおり、その姿が印象的でした。一人ひとりの力を結集し、これだけの規模と内容を実現したことに、吹田病院の底力を感じました。

やすらぎの医療を理念とする吹田病院は、これからも「身近な病院」「頼れる病院」として地域とともに発展していくため、誰もが安心して訪れることのできる場づくりを目指してまいります。

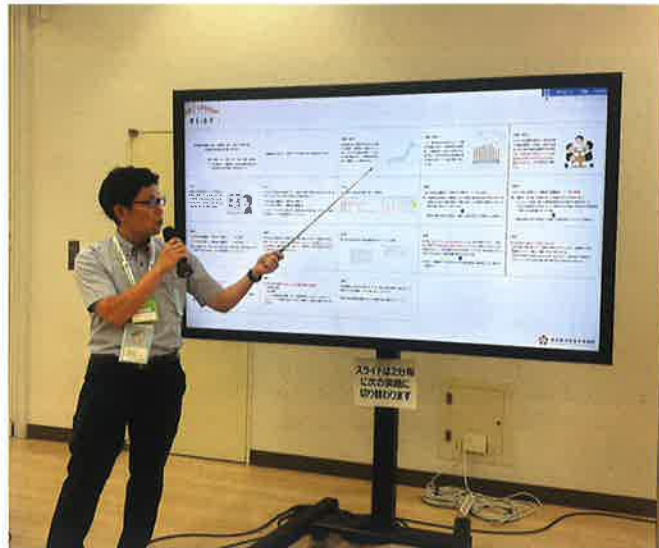
(済生記者 橋本 茜)

10月18日、〈大阪〉吹田病院は創立80周年を記念し、済生会フェアを開催しました。来場者は2200人を超える幅広い世代の方々が来場。特に若い世代のファミリー層の参加が多く、ベビーカーを押したご家族の姿が目立ちました。

本フェアでは「ホスピタルパークで感動を」をコンセプトに、病院をもっと身近に感じ、医療や福祉への理解を深める機会として、さまざまな体験型プログラムを展開。親子で参加できる「ミツシヨインホスピタル（大阪成蹊大学の学生さんとの病院なぞ解き探検ツアー）」や「薬剤師のお仕事体験」「親子サンドイッチ教室」「かえっこバザール（おもちゃ交換会）」など、学びと遊び

ファミリー層にも 大人気！

病院が身近に 医療への
理解を深める場



亀田氏の発表（SOP統一活動）。済生会内で標準化・統一化することにより、臨床試験の質の保証や効率化を促進する



企業ブースでは来場者から済生会共同中央治験審査委員会(IRB)に関する質問が多くあった



亀田氏の発表（DCT）。中央病院で受託した治験を全国済生会病院と実施。治験薬の発送やデータ連携の方法を説明

組みが紹介されていました。本会でも中央病院の亀田高寛氏が「パートナー医療機関への来院で完結する企業主導のDCT導入事例」生活習慣病領域における被験者集積の「仕組み」という内容でポスター発表を行ない、従来型治験よりも高い症例集積性の事例を紹介しました。筆者自身も「医療機関主体のDCTが変える日本の治験構造」医療機関×依頼者で共創する未来のスタンダードに向けて」と題したセミナーにパネリ

治験の大変革を予兆 済生会がやるべきこと
今年中には厚生労働省からGCP改正のドラフトが公開され、パブリックコメント募集が始まる見通しです。GCP改正では、日本の治験制度は大きな転換期を迎えます。本会としても、治験分野で新たなイニシアチブを掲げ、患者さんにとってより良い治験の実現に向けて、組織一丸となって変革に取り組んでいく必要性を強く感じる2日間となりました。



左から筆者、亀田氏、岡山済生会総合病院・岡田光代氏、本部共同治験推進室スタッフ

今回の会議では、昨年の議論に引き続き「ドラッグラグ」「ドラッグロス」の解消に向け、各立場で何ができるかを考えることが中心の議題となりました。解決策の模索という段階から、決定された施策を具体的に現場へ落とし込むフェーズへと移りつつあり、治験業務に携わる多くのステークホルダーの意識改革を促す場となりました。また、本学会では昨年度から実施されている医療機関・企

報告 第25回CRCと臨床試験のあり方を考える会議2025

臨床試験の未来に向けた新たな一歩



済生会が取り組む 治験エコシステムを発信

9月14・15日、〈埼玉〉大宮ソニックシティで「第25回CRCと臨床試験のあり方を考える会議」が開催されました。本学会は「CRCと臨床試験の未来～国際化とプロフェッショナリズム～」をテーマに、全国から3000人を超える関係者が集い、熱い議論や情報交換が繰り広げられました。

本部共同治験推進室長 **大山彰裕**

済生会から〈東京〉中央病院をはじめ、〈神奈川〉横浜市南部病院、〈群馬〉前橋病院、岡山済生会総合病院、福岡総合病院が参加。企業展示を行ない、本会の治験の取り組みや各病院の治験に関わる職種の求人情報を紹介し、多くの来場者に関心を持っていただく機会となりました。

治験エコシステム推進とGCP改正に向けた実践
今回の会議では、昨年の議論に引き続き「ドラッグラグ」「ドラッグロス」の解消に向け、各立場で何ができるかを考えることが中心の議題となりました。解決策の模索という段階から、決定された施策を具体的に現場へ落とし込むフェーズへと移りつつあり、治験業務に携わる多くのステークホルダーの意識改革を促す場となりました。また、本学会では昨年度から実施されている医療機関・企

DCTの最新事例発表 済生会の取り組み
発表の中でも、エコシステムからの提言の一つ、DCT手法（分散型治験）をテーマとした発表が多く、多種多様な取り組みが紹介されました。業・行政等が連携し、治験を円滑で効率的に進める仕組み（エコシステム）を構築することを目的とした「治験エコシステム導入推進事業」からの提言が多く、併せてGCP（治験実施基準）改正に向けた実施体制変革の提案が多く見られました。グローバル人材の育成や日本国内で実施する全ての医療機関の治験に係る審査を一括で審議するSingle IRBに対応するための手順変更、その実行を促すガバナンスの醸成まで多岐に渡っていました。

学会発足後、四半世紀を迎え、国内のみの取り組みではなく、グローバルとの協調を強く意識された

第25回
CRCと臨床試験の
あり方を考える会議
2025 in 大宮

CRCと臨床試験の未来
～国際化とプロフェッショナリズム～





あなたも「なでしこナース」になりませんか？

済生会看護部リクルートサイトオープン！

<https://www.saiseikai.or.jp/nurse/>




御所病院が地元スーパーで健康フェア



ライフ御所店に
130人が来場！

腸内環境を整える
専門家からの
アドバイス

〈奈良〉御所病院は10月15日、「腸活で健康に暮らそう！」をテーマにスーパーマーケットのライフ御所店で健康フェアを開催し、地域住民130人が訪れました。

当院では昨年からライフ御所店と協働して市民の健康づくりをサポートするイベントを実施しています。今回は特売日に合わせて健康フェアを開催。健康意識の高い方だけでなく、買い物ついでに誰もが気軽に健康づくりを意識できる機会を提供しました。

この日は腸の健康を通じて、日々の生活をより快適にするための情報や体験が盛りだくさん。測定コーナーでは体組成計での測定やチェックシートを用いた腸年齢チェックで、自分の体の状態を知る機会を提供しました。

栄養コーナーでは市販のヨーグルトを試食として提供。管理栄養士が腸内環境を整える食事の解説もあり、自宅で簡単に作れる腸活レシピの配布も実施しました。

腸活体操のコーナーでは、リハビリ担当者が日常で取り入れられる腸活体操を紹介。腸活マッサージのコーナーでは、看護師によるセルフマッサージの方法を実演。お薬相談のコーナーでは、薬剤師が腸に関する薬やサプリメントの相談に個別対応しました。

参加者からは「腸活の大切さを改めて実感した」「家でもできる体操やマッサージを覚えてもらえてよかった」といった声が多く寄せられ、健康への意識を高める有意義な一日となりました。

今後も地域の皆さんの健康づくりを支援する取り組みを続けてまいります。

（地域医療連携室 福井拓真）



Text：みやじまなおみ

Photos：大村祐里子

Hair & Make-up：KATO (TRON)

Styling：稲垣友斗 (CEKAI)

自分の演技には一生、満点を出せない。 でも、誰かの言葉が心の支えになる

若手俳優の中で最も勢いのある一人、板垣李光人さん。「近年の世界情勢を通じて、戦争が一気にリアルなものとして迫ってくる中でこの作品に携わり、田丸均という役に命を吹き込むことに大きな巡り合わせと責任を感じています」と真摯に語る姿から、俳優としての覚悟が伝

わってくる。特にペリリュー島を訪れた経験は大きかったという。「当時の瓶の破片がそのまま残っていて、洞窟にはカニがいました。もしかしたら兵士たちも捕まえて食べていたのかもしれないと、80年前に思いを馳せながら、足裏の感触やにおい、空気などを

五感で味わったことがアフレコの助けになりました」そんな板垣さんが心の支えにしているのは、周囲からもらう言葉だ。「自分の表現はどうだったのか、正解がないのが芝居の世界。生きていく間、自分に100点は出せないと思います。でも、監督やプロデューサーの方から『よかった』と言われると救われる。だからこそプレッシャーを背負いながらも、次の作品に進めるそう。

それでもマイナスの感情は出てくるが、自らが描くアニメ作品にぶつけることがデトックスになるという。さらにオンオフを切り替えたいときは「寝るのが一番」と板垣さん。「15分でも30分でも、無意識の時間が生まれることで気持ちに余白ができ、素の自分に戻るきっかけになります」



『ペリリュー — 楽園のゲルニカー』

美しい南の楽園・ペリリュー島で起こった恐ろしい戦いを史実に基づいてアニメ映画化。太平洋戦争末期の昭和19年、攻める米兵4万人に対して、迎え撃つ日本軍は1万人。その一人である漫画化志望の田丸均はその才を買われ特別な任務を命じられる。それは仲間の最期の勇姿を遺族に向けて手紙を書き記す「功績係」という仕事だった。日本兵は次第に追い詰められ、玉砕も禁じられた持久戦を強いられてゆく。最後まで生き残った日本兵はわずか34人。若き兵士が戦場で見たものとは。

■原作：武田一義「ペリリュー — 楽園のゲルニカー」（白泉社・ヤングアニマルコミックス）

■監督：久慈悟郎 ■脚本：西村ジュンジ・武田一義

■声の出演：板垣李光人、中村倫也、天野宏郷、藤井雄太、茂木たかまさ、三上瑛士・ほか

2025年12月5日（金）より全国ロードショー

©武田一義・白泉社／2025「ペリリュー — 楽園のゲルニカー」製作委員会 配給：東映

李光人

板垣

RIHITO ITAGAKI

終戦80年を迎えた今年、
かわいいタッチで
戦争の壮絶さを描いた
アニメ映画『ペリリュー』で
功績係を務める田丸均を
演じた板垣李光人さん。
実際に戦跡を訪れ、
声優として挑んだ収録の裏側、
そして、
自身の心の支えについて
語っていただきました。



口福につぼん

吉井省一

てるところが無い」と言われるほど、ほとんどの部位を食べることができ、身、肝、皮、胃袋、卵巣、えらひれは、あんこうの七つ道具とも呼ばれています。今回選んだあんこう鍋は、北茨城市の平潟港温泉にある、あんこうの宿「まるみつ旅館」のもの。「全国ご当地鍋フェス」



済生会の「病院・施設」がある
県内の市町村

よいい・せいいち 一般社団法人日本作詩家協会理事。コピーライター時代に老舗百貨店の食の通販誌で約30年執筆に携わり、試食した食品の数は1万点を超える。

日本一を2年連続獲得
茨城名物のあんこう鍋

江戸時代には水戸徳川家から將軍家へ献上されていた高級食材だった深海魚あんこう。「捨

肌寒い季節の到来とともに、食べたくなるのが鍋料理ですね。すきやき、しゃぶしゃぶ、寄せ鍋など、人気の鍋料理はたくさんありますが、ご家庭ではなかなか食べる機会が無いのが「あんこう鍋」ではないでしょうか。「西のふぐ、東のあんこう」と古くから称されてきた珍味あんこう。ちなみに、丸く太った力士を「あんこ型」と呼ぶのは、このあんこうから来ているそう。産卵のため栄養を蓄えて肝が肥大化する11月から2月にかけてが一番美味しい時期と言われています。まさにこれから旬。今回は「鍋」に加え、ラーメン好き注目の「あん肝ラーメン」まで楽しめるセットをご紹介します。



海底で旨みを蓄えたあんこうは、良質なたんぱく質を多く含み、脂質や炭水化物は少なめ。刺身、蒸し肝、つつみ焼き、唐揚げなど、捨てる場所も少ない

あんこう鍋 あん肝ラーメン

《あんこうの宿
まるみつ旅館》
北茨城市

生態や有用性などを研究する『あんこう研究所』が設立されています。料理を開発したり、グッズを販売しているほか、あんこうに含まれるコラーゲンについて大学との共同研究も行なっています。

この「あんこう鍋」用には、身と皮と肝、そして米味噌仕立てのスープが入っています。もう一つ、あんこうの肝を使った美味が「あん肝ラーメン」。

テレビ番組でも多数取り上げられ、最近では2日間のイベントで1000食完売した超人気ラーメンです。



天然の良港である平潟港は温泉地としても人気

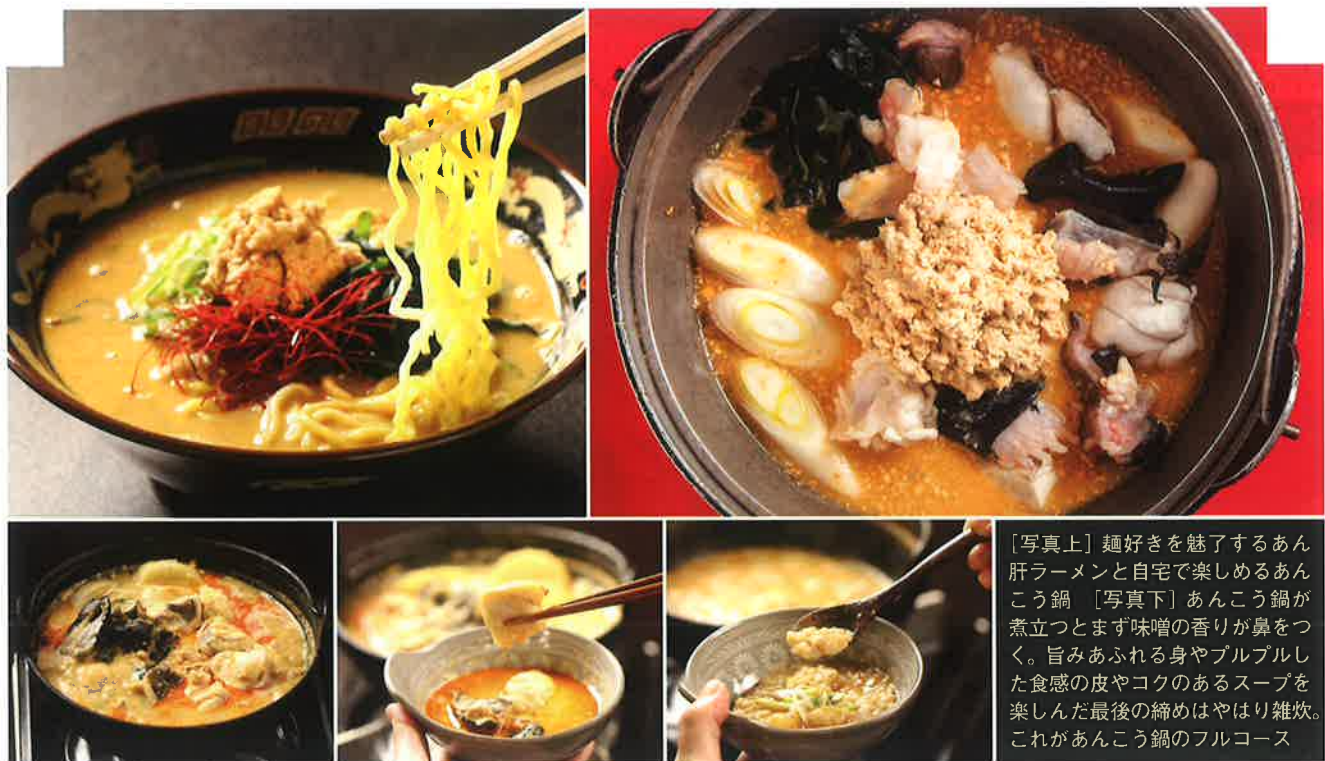
湯気の先っぽまで旨い 鍋とラーメンに舌鼓

それではさっそく、白菜、ねぎ、大根、椎茸、人参などお好みの野菜とともに、あんこうのお鍋をいただいて参りましょう。ぐつぐつ煮立つと、味噌の甘い香りがほんのり漂って、食欲はマックス状態に。沸騰したら、アクを取り除き、肝をおたまの中で軽く溶かしながら投入。煮込み過ぎないのがポイント。

プルプルした食感の皮。白身魚のような味わい深い身。海のフォアグラの名の通り濃厚な味わいの肝。部位ごとの味が楽しめるのもあんこうならでは。そして、あんこうの旨みが溶け出したクリーミーでコクのあ



「ようこそアンコウの世界へ」の暖簾が、食通たちを美味なる世界へと誘う



【写真上】麺好きを魅了するあん肝ラーメンと自宅で楽しめるあんこう鍋 【写真下】あんこう鍋が煮立つとまず味噌の香りが鼻をつく。旨みあふれる身やプルプルした食感の皮やコクのあるスープを楽しんだ最後の締めはやはり雑炊。これがあんこう鍋のフルコース



「まるみつ旅館」であんこう料理を楽しんだら、自慢の温泉風呂で疲れを癒やしたい

みが浸み込んでいます。それらが混然一体となり、ひとつの鍋の中に美味なるハーモニーを奏でているのです。さすが日本一。最後の締めは雑炊がおすすめです。お米のひと粒一粒に旨みが浸み込んで、くせになる味わいです。次に、このお鍋のスープを生かした「あん肝ラーメン」へ。トッピングは刻みねぎ、わかめ、海苔、塩ごまなどで。

味噌の豊かな風味と肝の濃厚な味が程よく溶け合ったスープがとても美味。麺の太さや縮れ具合もスープとよくからみます。もちろん、一滴残らず完食。身体のコまで温まる、本場ならではの「あんこう鍋」と「あん肝ラーメン」。冬本番にさしかかる今こそ、おうちで心ゆくまで堪能したいものです。



日本一のあんこうセット
[あんこう鍋(2人前)、あん肝ラーメン(2玉)]
7,700円(税込・送料別)
賞味期限……冷凍90日
お取り寄せ・お問い合わせは
あんこうの宿まるみつ
〒319-1701 茨城県北茨城市平潟町235
TEL: 0293-46-0569
ホームページ: <https://ankounabe.com>



クリスマスツリーと ゆかいなサンタ

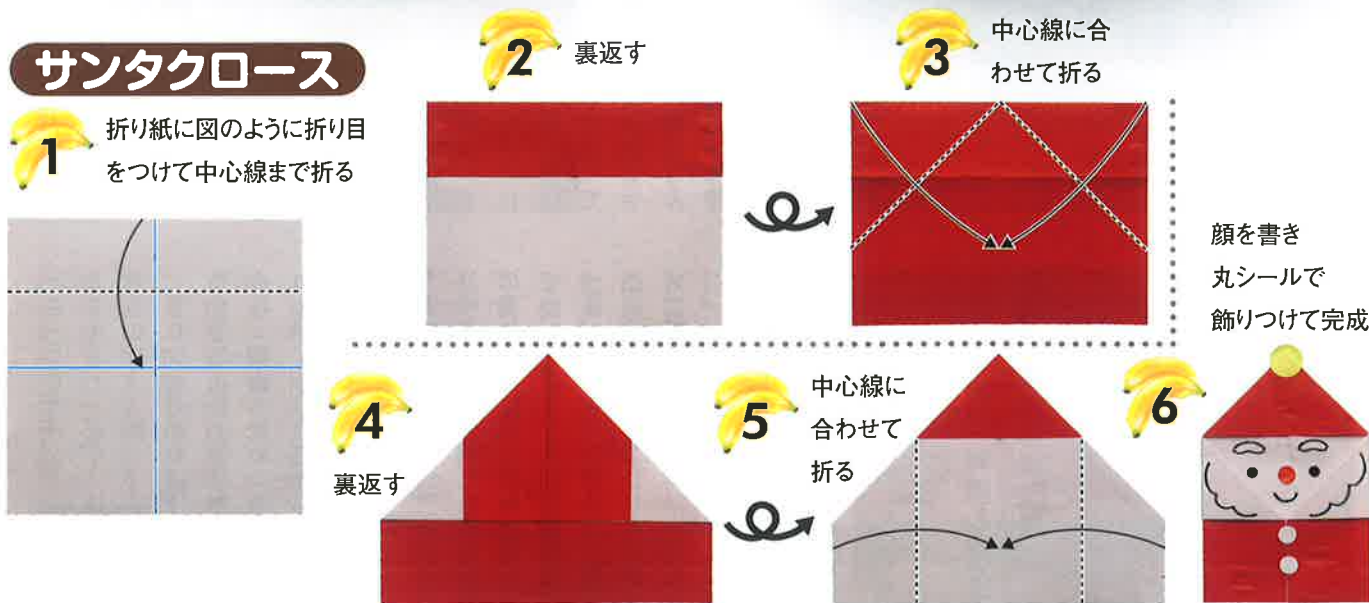
置きかざり

作品 いまいみさ

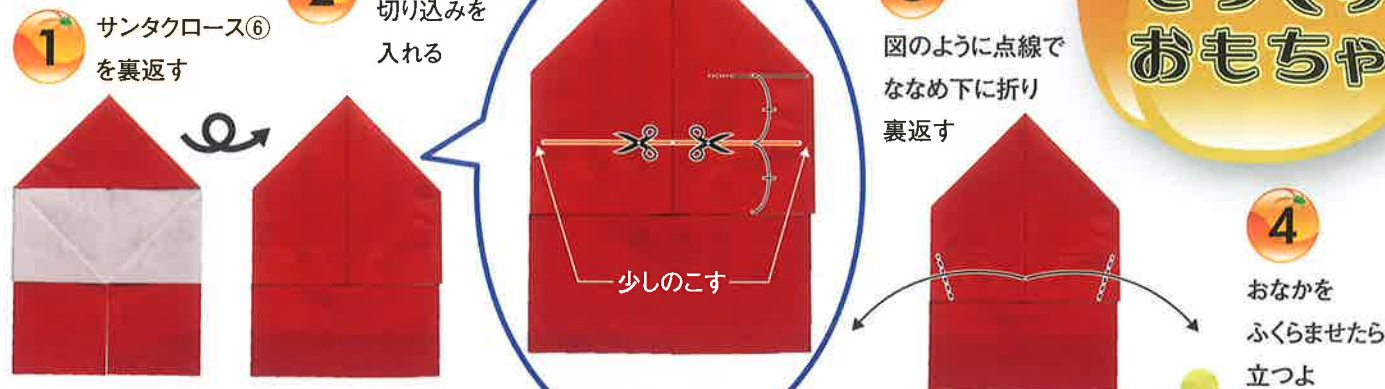


--- 山折り
- - - 谷折り
↺ 裏返す

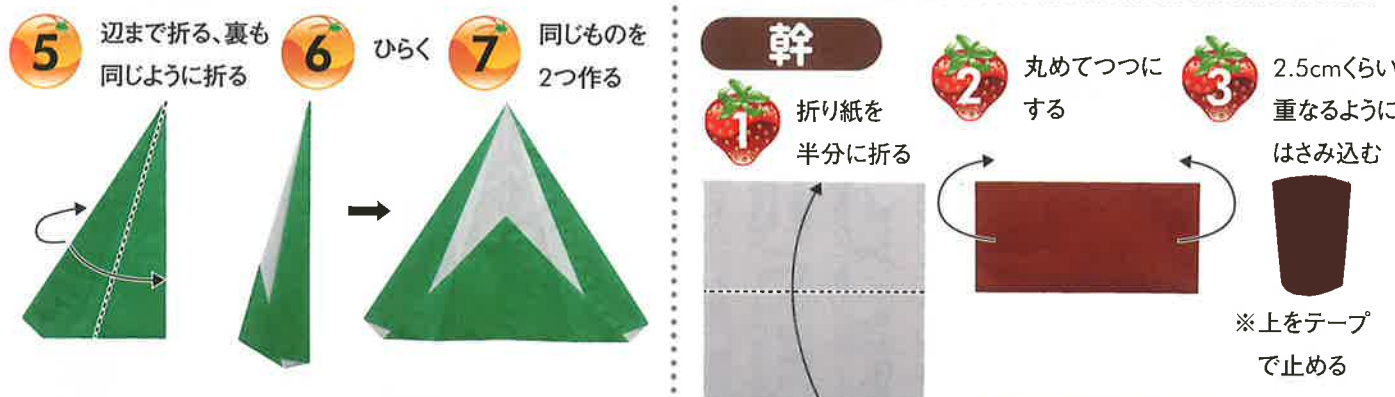
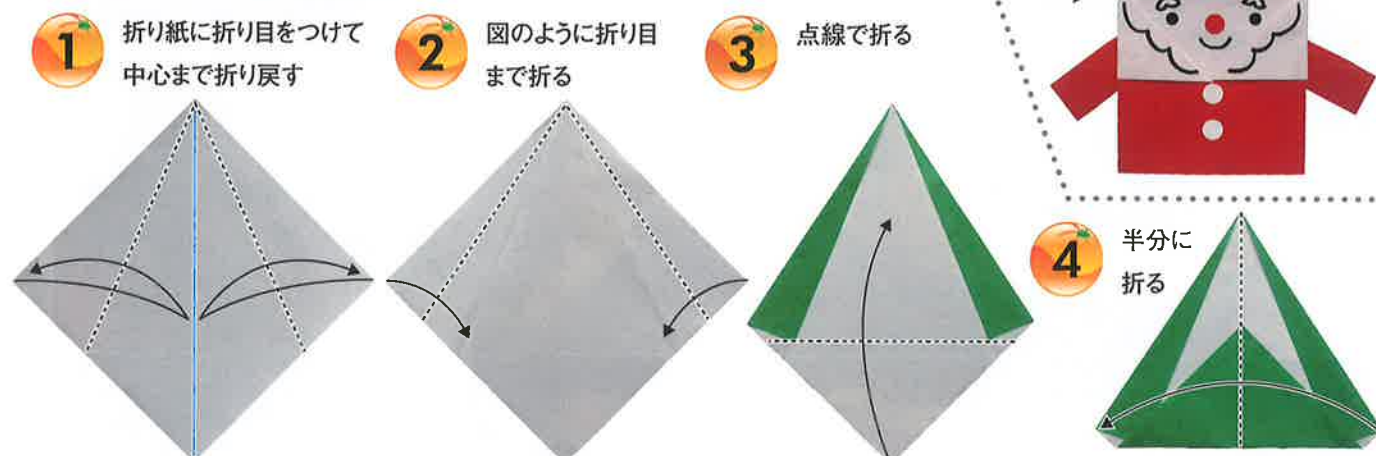
サンタクロース



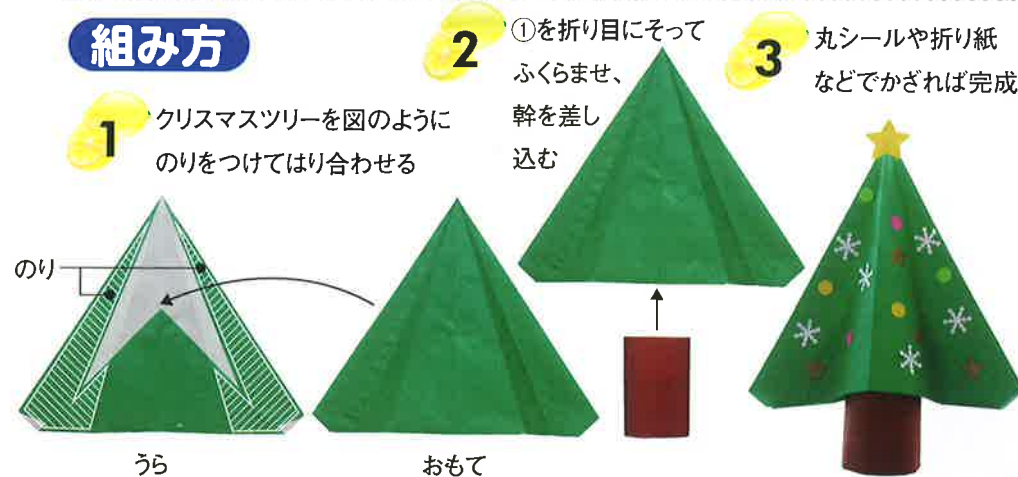
アレンジ



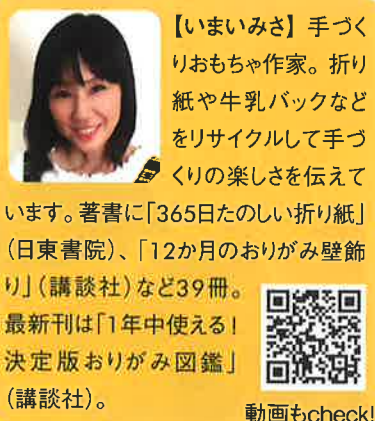
クリスマスツリー



組み方



だれでもかんたん
てづくり
おもちゃ



【いまみさ】手づくりおもちゃ作家。折り紙や牛乳パックなどをリサイクルして手づくりの楽しさを伝えています。著書に「365日のいい折り紙」（日東書院）、「12か月のおりがみ壁飾り」（講談社）など39冊。最新刊は「1年中使える！決定版おりがみ図鑑」（講談社）。動画もcheck!

作品・折り図：いまみさ
おりがみ協力：株式会社トヨー



〈福井〉特養聖和園。9月15日の「敬老の日」に合わせて各施設で敬老会が行なわれました。P62～67をご覧ください

topics

病院のイメージCM完成 TVミニ番組もスタート！

熊本病院

8月上旬に当院のイメージCMを制作しました。多職種22人が参加し、台本なしのインタビューを収録。患者さんへの思いや仕事への向き合い方などを、それぞれ飾らない言葉で語ってくれました。

YouTubeチャンネルでぜひご覧ください。さらに10月からは、暮らしに生かせる医療の知恵や最新の治療法、健康のための習慣を分かりやすく紹介するミニ番組「しあわせ、医のチカラ」もスタート。KAB熊本朝日放送で毎月第1火曜の夜8時57分から放送中で、初回放送は循環器内科の奥村謙医師が「検脈」について説明しています。当院公式YouTubeチャンネルでご覧いただけますので、こちらも併せてご覧ください。



★チーム医療の姿・医療現場の思い、動画で観るのが楽しみです！

（本部広報課 杉山菜央）

〈神奈川〉特養わかさ

笑顔こぼれる紙芝居

当施設では、地域住民の活動の場として1階多目的室を開放し、現在毎週木曜日の午後は、区内で暮らす外国籍の小学生の日本語教室の活動を行なう「かもめ教室」の皆さんが利用しています。



7月10日、当施設の入居者さんとの交流の場を持つてもらったため、入居者さん30人を前に、「かもめ教室」の生徒さん10人に紙芝居を読んでもらう企画を行いました。顔を赤らめ恥ずかしそうに読んでくれたり、大きな声でハツラツと読んでくれたりと、生徒さんごとの個性があり、先生方や入居者さんの笑顔に見守られ、15分間ほどでしたが、紙芝居を披露してくれました。

普段は積極的に言葉が出ない入居者さんも、口々に「かわいいわね、いくつ？ 頑張ったわね」など目を細め笑顔で声をかける姿に、生徒さんへの愛情を感じました。

（生活支援課 長澤さち子）

〈埼玉〉加須病院

入退院調整の連携強化 「Linkazo」を初開催

10月3日、当院講堂で「Linkazo（リンクかぞ）」を初開催しました。この会は、利根保健医療圏内の各病院で退院調整業務



を担う皆さんと、地域内の退院調整を円滑にできる、顔の見える関係づくりが目的です。

平日の就業後にもかかわらず16病院から28人が参加。まず当院看護師が「抗生剤の治療継続でも転院可能となった事例」を紹介。次に当院のMSW兼社会福祉士が「主治医とかかりつけ医の見解に相違があったケース」「複合的課題を抱える家族・本人への支援」と題して発表を行なった後、各事例を基にグループディスカッションを実施しました。

急性期や慢性期をはじめ、精神科を有するなど病院機能が違

う方々が参加したことで、普段はあまり知ることがない事例を知ることができ、全体を通して顔の見える関係性を構築できたと考えます。

（済生記者 蓬田絵里子）

福井県済生会病院

誰もが安心して過ごせる 医療のあり方を考える

日本ホスピス緩和ケア協会の「ホスピス緩和ケア週間」に合わせ、9月24日から10月10日まで、患者さんやご家族、地域の皆さんに向けた啓発イベントを開催しました。

20周年を迎えた今年のテーマ



は「すべての人に、すべての場所で、緩和ケアを届けるために」。展示やパンフレットの配布に加え、「自分らしく生きるために大切にしていること」をオレンジバルーン型の紙に記入し、空に見立てた模造紙に貼っていただくコーナーを設置しました。「健康維持」「感謝の気持ちを忘れない」など、心に響く25個のメッセージが空へと舞い上がりました。

緩和ケアは多職種が連携するチーム医療です。今後その重要性を伝え、誰もが安心して過ごせる医療のあり方を、皆さんと共に考える機会を大切にしていきます。

（済生記者 橋本来林）

〈静岡〉特養小鹿苑
こだわりのコーヒーで
介護予防！

9月16日、「S型デイサービス」という介護予防事業の依頼を受け、地域の公民館で出前講座を行いました。利用者さん16人、運営ボランティア12人の計28人が参加しました。

今回は静岡市主催の「しずおかちやちやちや」という介護予防事業と共同し、その事業で本格的にコーヒーを学んだ修了生3人による「こだわりのコーヒー講座」を実施。別々の介護予防事業に参加する高齢者同士が交流し、互いに高め合う関係を育むことを目的に企画しました。

趣味のコーヒーについて熱く語りながら、



おいしいコーヒーを淹れる元気な修了生に、参加者の皆さんも刺激を受けた様子で、コーヒーを挟んで会話を楽しむ姿が見られました。

普段は違う活動をしている高齢者同士の交流という、新たな介護予防につながるヒントを得た会となりました。

（済生記者 本間佐知子）

福井県済生会病院
思いを結びリボンツリー

10月は「ピンクリボン月間」「脳卒中月間」「臓器移植普及推進月間」です。当院では、院内に設置したツリーに3色のリボンを結び「リボンツリー」イベントを開催しています。



ピンクは

乳がんの早期発見、ブルーは脳卒中の理解と予防、グリーンは臓器移植の普及と意思表示の大切さを象徴しています。

来院した患者さんや家族がリボンを結ぶことで、誰かの健康を願う気持ちが形となり、院内に温かな思いが広がっています。

さらに、立体駐車場では各リボンの色にちなんだライトアップ



プも実施し、夜間も啓発のメッセージを発信しています。

今後も地域の皆さんとともに病気への理解を深め、命を守る大切さに気づききっかけを届けたいきます。

（済生記者 橋本来林）

〈和歌山〉特養潮光園
口腔ケアで地域交流

当施設の介護支援専門員で歯科衛生士免許を持つ小松陽子さんが、横田地区自治会から依頼を受け、9月24日に同地区文化会館で「口腔ケアで病気のリスクを下げる」と題して講演を行いました。

当日は地域住民約20人が参加。小松さんは「歯の重要性について」「食べる」「飲み込む」「ア



ンチエイジング」の話からスタートし、皆で口元を動かすパタカラ体操なども行ないました。また、喫煙者は歯周病になりやすいことや、奥歯が1本抜けると噛む力が半減することなどを楽しく愉快に説明。参加者の皆さんは笑顔で聞きながら、歯の健康について再認識した様子でした。

浦崎弘之施設長は「地域の皆さんに、健康について考えていただく機会を提供できてよかったです」と話していました。

（済生記者 山崎良彦）

お釈迦様の像と鈴を設置。実際に霊場を巡るよう利用者がさんたちが毎日「お参り」に励んでいる様子は、微笑ましくも心温まる光景です。お参りが日課となり、適度な運動につながる効果も。また、お参りしながら「ここ行った」「ここは知らない」など思い出を語り合う場面も見られ、新たな交流が生まれています。

私たち職員はこうした取り組みにより、利用者さん一人ひとりの思い出や体験を大切に、日々の生活に彩りを加えることを目指しています。

（済生記者 富岡優衣）



四国八十八カ所 霊場
写真でお参り

施設内で四国霊場巡り

〈愛媛〉小田特養緑風荘

「四国八十八カ所巡り」のテレビニュースを見た利用者さんの思い出話きっかけで、「施設内でもお参りができれば」というアイデアが生まれ、7月に施設の廊下が一転、四国八十八カ所の霊場に変身しました。

廊下の壁の端から各霊場の写真と順番に掲示し、最終地点に



「三重」 松阪総合病院 いのちのエンジニア！ 臨床工学技士の仕事体験

9月28日、三重県総合博物館で三重県臨床工学技士会主催の臨床工学技士「いのちのエンジニア」体験イベントが行なわれ、子どもたちを中心に約400人が来場しました。当院からは筆者（同技士会会長）と北村魁崇技士が参加。子どもたちと積極的に交流しました。



臨床工学技士の知名度向上と次世代の人材確保を目的としたこのイベントは、今回が2回目の開催。手術室、集中治療室、透視室を再現したブースでは、実際の医療機器を操作して業務内容を説明しました。

参加者からは「臨床工学技士になってたくさんの人の命を救いたいです」など、うれしい感想がありました。テレビや新聞でも取り上げられるなど、大盛況のうちに幕を閉じました。

（臨床工学課 係長 九鬼弘和）



「鳥取」 境港総合病院 他事業所と連携し 重層的な地域支援を

9月5日、みなとテラス（境港市民交流センター）で令和7年度なでしこ医療・介護多職種連携研修会を開催しました。済生会地域包括ケア連携士が中心となり企画され、今年で3回目。年々参加者が増え、今年は境港市内の関係事業所から82人も参加がありました。

当日は無料低額診療事業の紹介に続き、認知症看護認定看護師の田中のみ子副師長が自身の実体験も交え、認知症の方との

関わりについて講演しました。その後はグループワークを実施。テーマに沿って各職種、各事業所の立場での支援・関わりについて活発な意見交換が行なわれ、回を重ねてきたからこそ育ってきた交流の光景も見ることができました。



他事業所と連携することで重層的な支援が行なえることを共有し、地域支援の幅が広がったことを実感できた研修会でした。

（済生記者 亀尾美子）

「岩手」 北上済生会病院 浴衣がコースターに再生！

本誌2025年7月号で紹介した「北上×習志野 地域をつなぐアップサイクル」の作品

がついに完成しました！（千葉）習志野病院に寄付いただいた浴衣の柄や色味を生かし、経糸の7色で伝統さんの腰帯をイメージし、地域の伝統と想いを紡いだ3種類のコースターです。

これらのコースターは、単なる雑貨ではなく、地域の歴史や文化、そして人々の思いが込められたアイテムです。「モノを大切に作る心」を形にした、東北からの贈り物として皆さんにお届けします。

（済生記者 掛川千恵子）



「埼玉」 川口総合病院 里親と子どもをつなぐ 「橋渡し」そして

「私たちの役割は、子どもと児童相談所をつなぐ『橋渡し』で

す。そう話すのは、当院に隣接する川口乳児院の里親支援専門相談員、横山恭子さん。乳幼児の「声にならない思い」をくみ取り、代弁することが大切だといひます。

「里親制度は子どものための制度。だからこそ、心理士や相談員などの専門チームが一体となり、子どもにとって最善の環境を見極めて



CFプロジェクト
ウェブサイト

います。親子の関係は時間をかけて育つもの。焦らず、そっと背中を押す存在でありたい」と横山さん。里親さんと子どもを招いて毎年開く交流会で、子どもたちが自然と里親さんに甘える姿を見たとき、ああ、親子になったんだなと胸がいっぱいになるそうです。

川口乳児院では12月12日まで建て替えのためクラウドファンディング（CF）に挑戦中。この挑戦をぜひ応援してください。

（済生記者 原 衣里奈）

「山形」 特養愛日荘 花火を囲んで皆笑顔

9月17日に当施設の正面駐車場で「花火を囲んで楽しむ会」を開催しました。懐かしさや季節感を感じられる、毎年の恒例行事です。

当日は直前まで雨でしたが、何とか天候に恵まれ実施できることに。暗くなってきた空の下、



利用者さんと職員合わせて30人ほどが参加し、キラキラ光る花火を楽しみました。手持ち花火から始め、吹上花火の後、最後に打ち上げ花火を行いました。花火をグルグル回したり、火を眺めて思いにふける様子が見られたり、楽しみ方はさまざま。「久しぶりだ」「花火いいですね」などと懐かしむ声が聞かれました。打ち上げ花火では音と振動と光に「おー！！！」と歓声が上がりました。

利用者さんも職員も終始ニコニコ、笑顔があふれ、互いに普段とは違う表情が見られたようです。（済生記者 高橋 睦）

topics

第7回済生まつりを10月4日に当院・老健フロアラさいせい・訪問看護ステーションで共催し、子ども連れの家族を中心に約2300人の地域住民が来場しました。



当日は、キッズ

ナース体験や血液標本鏡検などの体験ブースが好評。福島重宣人工関節センター長と外科の藤本博人診療副部長による手術のデモンストレーション、ラパロ鉗子や心臓カテーテルを使った手技体験には、大人も熱心に参加しました。また、お薬相談や高齢者・介護体験、ネックレス作りのワークショップなどにもぎわいを見せました。

健康増進センターめぐみでは、整形外科の佐々木幹診療部長による「股関節から考える歩ける体の作り方」の講演と実技指導が満員御礼。セラピードッグとのふれあい、キッチンカーや縁日も人気を集め、来場者からは

「毎年楽しみ」との声も聞かれました。

(総務課 齋藤千春)

福祉的視点を持つこと

大分県地域生活定着支援センター



8月27日、県主催の「再犯防止推進関係市町村職員等研修会」が開催され、大分保護観察所職員とともに、当センターから御手洗和也センター長、相談員の黒木晃平さんと筆者が講師を務めました。

(相談員 大石 陽)

災害時の対応力を高める実践的な学び



9月26日、災害対策委員会が講師を務め、当苑グループ内で風水害対策講習会を開催しました。実践的な研修を通して、災害時に必要な知識と対応力を身につけることが目的です。

(済生記者 岸川涼二)

恒例の済生まつり

体験ブースが好評！

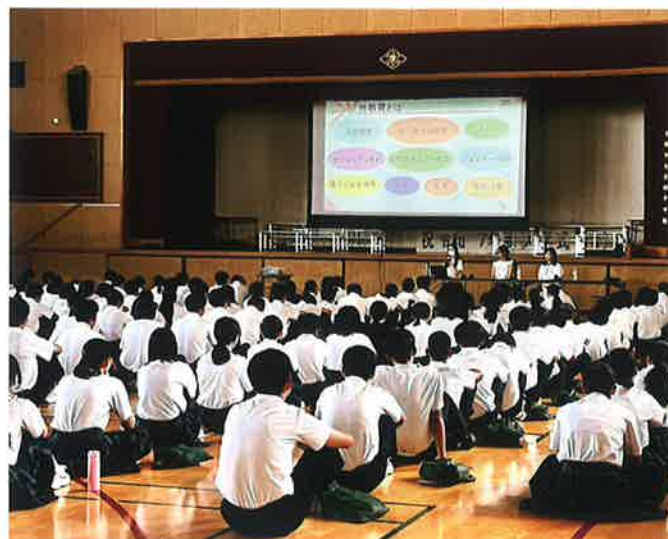
山形済生病院



〈大阪〉野江病院 中学生に「いのちの授業」

当院は無料低額診療事業を実施する社会福祉法人の病院として、広く地域に向けて健康・保健教育を行なう社会的使命があります。

9月17日に助産師およびMSW（医療ソーシャルワーカー）の合計4人で、昨年に引き続き、鶴見区にある大阪市立茨田中学校を訪問し、同中学3年生の男女205人に向け、「いのちの授業」を行ないました。



「いのちの授業」は中学生の皆さんに自分自身の「身体」や「生き方」「いのちのつながり」「いのちの大切さ」「相談することの大切さ」を伝えたいという私たちの思いから2013年にスタートしました。

授業後にはアンケートを実施し、中学生の皆さんから「いのちの授業」は中学生の皆さんに自分自身の「身体」や「生き方」「いのちのつながり」「いのちの大切さ」「相談することの大切さ」を伝えたいという私たちの思いから2013年にスタートしました。

〈栃木〉宇都宮病院 地域で支える認知症医療 顔の見える関係づくり

さんから「自分も相手も労りたいと思った」「周りの大人に相談しようと思いました」など率直な意見が聞かれました。

主任 MSW 西村真世

8月30日、当院で「令和7年度第1回認知症疾患医療センター地域連絡会議」をオンラインで開催しました。

当日は地域の医療・介護・福祉関係者と栃木県や宇都宮市の職員計16人が参加し、顔の見える関係づくりを深めました。続いて、昨年度に当センターが実施した相談対応の実績が報告され、相談件数の傾向や課題について共有。その後、認知症支援の現場での課題や今後の連携の方向性について活発な議論が交わされました。

今回の会議を通じて、関係機関が情報を持ち寄り、地域全体で認知症の方と家族を支える体制を強化することの重要性を再確認しました。稲見一美地域連携課長（MSW）は「今後も地



域の皆さんと協働し、誰にとっても安心して住みやすいまちづくりに貢献したい」と話しています。

（地域連携課 川田綾香）

〈富山〉高岡病院 無低事業広報と健康相談に 過去最多の102人

9月20日、イオンモール高岡で無料低額診療事業広報活動・健康相談会を実施し、過去最



〈岡山〉吉備病院 レントゲン室を明るく！

9月から当院の診療放射線技師・赤木千秋さん（常勤）と佐藤千恵美さん（非常勤）のユニホームが、これまでの白のケイシーから明るく元気な印象のオレンジ色のスクラブへ変わりました。

「着るだけで元気が出ます」と話す赤木さん。ますます若々しくなった二人は、窓のないレントゲン室でも笑顔絶やさず、患者さんの不安な気持ちにそっと寄り添ってくれています。

女性ならではの細やかな気配りと丁寧な対応は、病院全体の雰囲気をも明るくし、イメージアップにもつながっています。

（済生記者 難波美紀）

〈三重〉明和病院 年代別研修にOSCE導入

当院リハビリテーション技術部は「患者を良くする！」を目標に日々研鑽を重ねています。その一環として年代別研修を実施しており、今年度から1年目と3年目の職員に対しOSCE（オスキー）を取り入



れました。OSCEとは客観的臨床能力試験のことで、医療従事者が臨床で必要とされる知識、技術、態度を多角的に評価する方法です。これにより、各々の職員が自らの強みと課題を共有でき、職員同士の良いコミュニケーションの場となっています。

1年目職員10人は8月中の6日間にわたって実施。受講者が緊張しつつも日々の成果を発揮する姿に対して、評価者の的確な助言があり、職員の成長を感じられる大変有意義な時間でした。3年目職員5人は11月に研修を実施予定です。

（リハビリテーション技術部 係長 芝山龍介）



多くの102人が来場しました。川端雅彦院長、寺崎禎一副院長をはじめ、当院と関連する訪問看護ステーションの職員など計20人がスタッフとして参加しました。

当日は受付時に済生会の理念と無料低額診療事業について説明。健康チェックの後、医師に

よる医療相談を実施しました。今回、新たに済生会高岡などしこ保育園の保育士2人が参加。保護者が落ち着いて健康相談に臨める環境を整えました。

来場者の中には「おたる水族館」で楽しんでもらいました。販売元の北海道済生会は障

がいのある方々の賃金向上と地域活性化を目指しており、当院もこの取り組みに賛同。ポスターカラーで自由にフィギュアに色を塗る体験は子どもたちに大変好評でした。

（医療社会事業部 MSW 澁谷梨紗）



〈岡山〉吉備病院。右から赤木さんと佐藤さん

和歌山病院

救急医療推進に貢献
川上院長が知事表彰

8月30日、川上守院長が令和7年度和歌山県救急医療功労者知事表彰の個人表彰を受賞しました。この表彰は、救急業務や救急医療の推進に貢献し、国民の生命身体を守ることに顕著な功績があった個人・団体に贈られるものです。



当院では、昨年2402台の救急車の受け入れを行ないました。和歌山市を中心に県内各地からの救急搬送受け入れ、地域医療機関との連携、救急従事者の育成、公的機関との協力など、幅広い活動で地域医療に貢献しています。こうした当院の長年の取り組みが高く評価されたことが川上院長の個人表彰につながりました。

川上院長は受賞にあたり「この受賞を励みに、さらに地域の皆さんから信頼され、必要とされる病院となるため職員一同努力してまいります」とコメントしました。

(済生記者 松元靖寿)

〈神奈川〉湘南平塚病院

院内学会でスキルアップ

9月13日に第27回院内学会を当院でしこホールで開催し、73人が参加しました。日頃の取り組みや成果を発表するとともに、来年2月の済生会学会に向けた演題選定会として行なわれました。

発表は、看護部7題、総務2題、放射線科、栄養科、リハビリ、関連施設の老健と通所介護



から各1題の合計14演題。特に注目を集めたのは、高齢者医療・ケアサポートチームの認知症ケア認定看護師による活動報告や、人間らしさを尊重するケア技法である「ユマニチュード」の学習を契機にした研究などです。また、関連施設である平塚市袖ヶ浜デイサービスセンターの大規模修繕に伴う1年半の引っ越しの経緯や、事業継続への取り組みについての発表も高評価を得ました。

発表を通じて課題を共有し、「部署をまたいで協力したい」という意見も飛び交いました。

(済生記者 川崎菜美)

〈山形〉はやぶさ保育園

手伝ってできた！
格別においしい芋煮

9月23日、後日給食で振る舞われる山形の秋の味覚「芋煮」に使用するため、4歳児23人が里芋掘りを行いました。

園児たちはバスに乗って、ワクワクした様子で出発。畑に着くと収穫の仕方をしっかり聞いて



て、親芋から一つひとつ丁寧に芋を取りました。

25日には、2歳児15人がこんにゃくちぎり、1歳児15人がしめじをぐしをお手伝い。こんにゃくに触れると「冷たい」「へびみたい」と笑顔に。コッをつかむと指先に力を入れながら



上手に小さくちぎっていきます。しめじは、集中して一つひとつ丁寧にほぐしていました。そして迎えた給食の時間、芋煮の中から里芋やこんにゃく、



しめじを見つけると「見つけたよ！」とうれしそうに頬張る園児たち。芋煮作りに参加したことで、よりおいしく楽しく食べることができました。

(保育士 工藤久恵)

〈兵庫〉特養ふじの里

小規模特養でしこ神戸

おいしいお肉に皆で舌鼓

ふじの里・なでしこ神戸互助会主催で職員親睦のバーベキュー大会を9月26日、10月3日の2日間開催し、合計58人が参加しました。

バーベキュー用のお肉は地元で有名な山垣畜産で購入。焼きそば、おにぎり、デザートにア



イスクリームも用意しました。1回目は絶好のバーベキュー日和で、火起こしに苦戦しましたが、おいしいお肉に皆で舌鼓。2回目はあいにくの雨でしたが、1回目よりスムーズに火が起きました。

仕事では部署内でもなかなかゆっくり話せず、他部署の職員とは顔を合わせる機会も少ない中、仕事以外の話もたくさんできて和やかな時間でした。

職員からも好評で、日々忙しく仕事をしていますが、ひとときでも癒やしの時間になったのであればうれしいです。

(事務課 課長代理 前田 京)



topics



国際電話詐欺の撲滅へ 院内でキャンペーン実施

10月16日、当院で福井警察署職員による「みなでとめよう!! 国際電話詐欺」運動が実施されました。

この取り組みは、特殊詐欺の被害を未然に防ぐことを目的としており、国際電話利用休止の申請方法に関する説明や、来院者への注意喚起が行なわれまし

福井県済生会病院

シヨートステイや在宅での看取りにも対応していることなどが掲載されています。今後も生活の場で最期を迎えられるよう、医療や職種間の連携を強め、看取りの体制を整えていきたいと考えています。
(済生記者 永原 聡)



物品を引き取りに来たコミュニティソーシャルワーカー



ネットワークを生かし 必要な支援を地域へ

〈大阪〉吹田病院

当院では、なでしこプランの一環で当院独自の地域セーフティネット事業を行なっています。2016年にタオルの募集を始めて以来、5年目。今回は8〜9月に吹田医療福祉センター内で食品・生活用品を募集し、65品目に及ぶ寄付が集まりました。

寄付は匿名で行なえるよう、職員食堂に回収用の箱を設置。衣類の一部は、夜間などに救急外来を受診し、衣服が汚れて着替えない方のためにストックとして活用されています。

引き取りには大阪府社会福祉協議会を通じてコミュニティソーシャルワーカーに来院してもらい、選別して持ち帰ってもらっていました。

今回は新たな試みとして、集まった物品の写真を「大阪しあわせネットワーク」のメーリングリストに発信。特に食品に対する反響が大きく、迅速に提供

することができました。

〈福祉医療支援課 長田悠子〉

自衛隊とのコラボで 防災を楽しく学ぶ

〈福岡〉二日市医療福祉センター

10月5日にイオンモール筑紫野で「健康福祉フェア 防災・災害医療編」を開催し、320人が来場しました。今回は、災害拠点病院である〈福岡〉二日市病院と、地域で災害が起こった際に中心的な活動をする自衛隊がコラボし、地域住民の防災・健康意識の向上を目的に開催しました。

イベントでは、自衛隊と二日市病院DMAT隊員による災



害現場での経験談を交えた講演会や応急処置体験、自衛隊VR体験、模擬避難所や備蓄品の展示、健康測定会などを行ないました。

参加者からは「遊びながら子どもたちが災害に興味を持ってくれてよかった」と好評であり、子どもから大人まで楽しみながら学んでいる姿が印象的でした。次回は来年1月25日に開催予定で、地域住民のお役に立てるイベントを企画中です。

(福岡・二日市病院 済生記者 都甲七桜)

看取りの取り組みが 専門誌の特集記事に

〈滋賀〉特養淡海荘

8月に済生会の「ソーシャルインクルージョンを考えるWebメディア」(愛称「シンク」)で取り上げられた当施設の看取りの取り組み(P12にダイジェスト記事を掲載)について、9月11日に「日経ヘルスケア」誌の取材を受けました。

同誌10月号の特集で「1歩踏み出す在宅・施設の看取り」として、9割の入居者が当施設での看取りを希望していること、

タスクシフト／シェアを 意識した学術集会

〈鳥取〉境港総合病院

9月20日、第21回日本医療マネジメント学会鳥取支部学術集会が境港市民交流センターで開催され、128人が参加しました。

今年当院が開催担当で、佐々木祐一郎院長を学術集會会長として、「医療現場におけるタスクシフト／シェア」をテーマに行ないました。

特別講演では、竹田陽介氏(一般社団法人病院マーケティングサミットJAPAN代表理事)が、「共創から始める『愛され病院』のつくり方」人も地域もすこやかにする医療マネジメントの新たな可能性」と題して講演。

その後の一般演題やシンポジウム



では、計31題の発表が行なわれ、健診センターの松本詩歩子看護師・保健師、医療サービス課職員の山中百加さん、訪問看護ステーション白鷗の山口由美子看護師が優秀賞を受賞。参考となる発表が数多くあり、有意義な学会開催となりました。

(済生記者 亀尾美子)

〈埼玉〉加須病院 未来の医療人材を育てる

9月26・29日に大宮開成中学・高等学校の生徒を対象に病院見学・実習の受け入れを行ないました。これは、生徒に将来埼玉県で医療に従事する志を抱いてもらうことを目的に、同中学・高校と新たに企画したものです。

中学1年生編では、学校側からの「患者さんに寄り添う必要性や何を求めているかを想像してもらいたい」「多職種が関わっていることを学ばせたい」という要望から、病棟で看護ケアの実習・病院見学を企画。高校2年生編では医学部志望の生徒に対し「埼玉県での医師としての従事を意識させたい」「実習を通して、医師・医療に対する具体的な印象を持たせたい」ということで、各種講義・院内見学・AEDを用いたBLS研修を企画しました。

今回は合わせて22人の生徒を受け入れました。



今後も未来の医療を担う人材を育てる取り組みを続けます。
(済生記者 蓬田絵里子)

E型肝炎例の登録報告 学会機関誌に論文掲載

全国済生会肝臓共同研究グループ

全国済生会肝臓共同研究グループ(SLSG)では2013年からE型肝炎症例の登録を行なっています。

このたび、2022年までの10年間を一区切りとして研究成果をまとめ、日本肝臓学会機関誌「肝臓」に投稿。「全国済生会肝臓共同研究グループにおける2013年〜2022年の10年間のE型肝炎症例の登録報告」というタイトルで、「肝臓」9月号に掲載されました。

全国にまたがる済生会グループであるからこそ叶った研究報告であるからこその研究報告



告です。今後もこの強みを生かして、肝臓学に貢献できるようグループ研究を進めていきます。
(岡山済生会総合病院 肝臓病センター主任医長 川上万里)

〈山口〉下関総合病院 リハビリ庭園が復活

芝生や木々が生い茂り、木漏れ日のあるウッドデッキで患者さんが歩行練習や階段昇降練習などを行なっていたリハビリ庭園は、老朽化のため数年間使用できていませんでした。昨年取り壊し工事が行なわれ、10月に新たなリハビリ庭園として生まれ変わりました。



最終的な安全確認を終えてからの使用になりますが、隣接するリハビリ室の大きな窓からは、以前よりも街並みや響灘に浮かぶ島々などの景色がきれいに見えるようになりました。患者さんから「早く外に出たいね」「いつから使えるの？」など和使用を待ち望む声が多く聞かれます。天気や気候の良い日にはここで歩行練習などを行ない、患者さんの気分転換ややる気の維持につながればと思います。生まれ変わったリハビリ庭園を使用できる日が楽しみです。

(理学療法士 岡本実緒)



山口総合病院 ハートデーイベント初開催 手術体験者が感動与える

9月26日、世界中の人々が心臓の健康を大切にする「世界ハートデー」のイベントを当院で初開催しました。循環器内科医と心不全療養指導士が中心となり、心不全指導や健康チェック、ポスター展示を行ない、地域住民や入院患者さんなど約120人が参加しました。

午後からは、心臓血管外科の小林俊郎医師と手術体験者の塚本真衣さんによるトークショー、声楽家でもある塚本さんとピアノ伴奏の沓内美奈子さんによるミニコンサートを開催。「四季の歌」「いのちの歌」など約10曲が披露され、最後の「ふるさと」では来場者と合唱し、大盛況のうちにイベントを終えました。

参加者からは「感動した」など多くの感想が。今後も多職種



〈熊本〉みすみ病院 地元のテレビ番組に 吉岡院長が出演

RKK熊本放送のテレビ番組「火の国魂」(10月18日放送)の取材が9月29日に行なわれ、吉岡正一院長が出演しました。熊本県内の企業や団体の経営者へインタビューを行ない、その人間性を通して企業や団体の魅力を伝える番組です。



取材中、座右の銘を聞かれた吉岡院長は「一所懸命」と回答。置かれた場所で懸命に取り組むことを心がけてきたと話しました。

数年前までは急性期病院で外科手術を行なうなど急性期医療を中心に取り組んできましたが、当院の院長に就任後は全く異なる地域医療、特に在宅医療にまい進しています。

今回の取材をきっかけに、どのような場所であっても、必死に努力する吉岡院長の生きる姿勢「一所懸命」を垣間見ることができました。

(済生記者 船橋麻紀)

高野知代子

が力を合わせ、地域の皆さんに愛される病院を目指し、日々努力してまいります。
(看護部 副看護部長 高野知代子)



topics

〈大阪〉泉尾特養第二大正園 製品・サービス展示会で 介護のヒントを得る

10月15日、松井利明園長と介護職員5人で、インテックス大阪で開催された「ケアテックス大阪」(10月15～17日開催)に参加しました。

最新の介護・福祉関連製品や



サービスが多数展示されており、体験を通して学ぶことができました。特に印象に残ったのは、株式会社リクシルの「ボディハグシャワー」で、10個のノズルから同時に吐水され、角度を自由に調整でき、利用者さんが座ったままでも全身を包み込むように洗える設計が特徴的でした。

また、AIで議事録を自動で作成してくれるものもありました。雑談や私語を自動的に除外し、要点のみを正確に記録できる機能がいいと思いました。

今後の業務効率化や介護現場の改善に役立つアイデアを多く得られ、有意義な時間となりました。

(済生記者 黒木洋輔)

〈栃木〉宇都宮病院 身寄りのない人の支援を 多職種連携で考える

8月20日、当院みやのわホールで「第1回中央ブロックネットワーク研修」を開催し、地域の多職種約50人が参加しました。始めに稲見一美地域連携課長(MSW)が、救急搬送される身寄りのない高齢者が増えている現状に触れ、本人の権利や財



滋賀県病院 地域の健康講座に 職員3人を講師派遣

9月12・18・25日、栗東市主催の生涯学習講座「はつらつ教養大学」で、当院の看護師2人と理学療法士1人がそれぞれ講演を行いました。コミュニケーションセンターを会場に、3日間で



市民91人が参加しました。60歳以上が対象のこの講座は、受講者の関心事や地域が抱える課題をテーマに、充実した日々を過ごすためのきっかけづくりを目的としています。

講座では、脳卒中を早期に見つけるポイントと日常生活での予防法、感染予防の知識、そし

(地域連携課 川田綾香)

て運動機能の低下を防ぐための体操指導などの健康情報をお届けしました。

こうした地域の活動を通じて、皆さんの健やかな毎日を応援し、健康づくりのお手伝いをするにと、医療機関の大切な役割だと考えています。

(済生記者 鵜飼健成)

山形済生病院 幅広い世代に健康啓発

「やまがた健康フェア」がイオンモール天童で開催され、9月



13・14日には当院併設の健康増進センターめぐみのスタッフ8人が「健康体操」と「体力測定やつてみよう」コーナーを担当しました。

健康体操には2日間で幅広い世代が約75人来場し、音楽に合わせて楽しく身体を動かしました。「体力測定やつてみよう」コーナーでは握力測定や座位体前屈、立ち上がりテストなどを実施し、2日間で約280人が来場。姿勢をチェックできるコーナーもあり、理想の姿勢について健康運動指導士がアドバイスしました。

15日には臨床検査技師による「簡易聴力検査」と「のぞいてみよう！顕微鏡」、ソーシャルワーカーによる「医療・福祉・介護 ぐらしの相談会」を実施。来場者の子どもが検査技師になりきり、楽しそうに顕微鏡を体験していました。

(済生記者 柏倉汐里)

奈良病院 2回目のフードドライブ 段ボール4箱分を寄贈

9月25日、当院で2回目となるフードドライブを開催しまし



た。SDGsやソーシャルインクルージョンの観点から、職員の自宅に眠る食品や日用雑貨を持ち寄り、フードロス削減や経済的に困窮する家庭の支援につなげられるよう、チラシを作成して職員に呼びかけました。日用品関係が24品目46個、インスタント食品をはじめとする食品関係が14品目42個が集まり、段ボール箱4箱分となりました。

9月30日、奈良市フードバンクセンターの担当者が集まった品々を受け取りに来院。「12月に奈良市内の子育て世帯に食料品等の配布を予定しており、今回寄贈いただいたものを使用させていただきます。非常にありがたい」と喜んでいただきました。今後も引き続き開催していきたいと考えています。

(済生記者 西川崇宣)



子ども仕事体験イベントで「夢探しを応援」

〈岩手〉北上済生会病院

9月14日、「鬼っジョブ2025」北上おしごとパーク」が北上市・さくらホールで開催され、250人の子供たちが参加しました。小学4～6年生が約30種類の仕事やサービスを体験できる一大イベントで、当院は昨年度に引き続き、ソーシャルインクルージョンの取り組みの一環として出展。子供たちが自分の夢を探すことを全力で応援することは、私たちの使



1・ジャパン主催の「ビジョンが見えるCS向上セミナー」(受講者約30人)に、当院から看護師と事務職員の2人が参加しました。CS(顧客満足度)に優れた企業のフィールドワークを通してサービス向上のためのヒントを探る研修で、講師は

東京デイズニールランドのカストーディアル(清掃)部門で、そのうじの神様、チャック・ボヤージンさんに師事した鎌田洋さん。元オリエンタルランド勤務、現ヴィジョナリー・ジャパン代表取締役で、理念浸透とCS向上に尽力してきた人です。2日間、理念を行動に落とし込む重要性、CSとES(従業員満足度)の相関、組織文化の醸成について深く学びました。参加者同士の異業種交流も刺激的で、CSの本質を再認識する貴重な機会となりました。(総務課 橋本祐介)



和歌山病院 打線爆発も決勝で惜敗

9月21日、第46回和歌山県病院協会・和歌山市地区ソフトボール大会が、和歌山市の「せせらぎ公園」で開催されました。当院チームは1回戦を勝利し、迎えた決勝戦でも序盤は13対3と大量リード。しかし、チームの体力は限界を迎え、だんだんと点差を縮められる苦しい試合展開に。結果は、サヨナラホームランを打たれ、18対20で敗れ、2年連続での県大会出場を逃しました。



松本好弘監督は「選手の方々は雨の影響で思ったより練習ができなかった中、ぶっつけ本

番での試合。結果は残念でしたが、猛暑の中、最高のパフォーマンスを出してくれました」と選手たちをねぎらい、「来年も済生会近畿ブロックソフトボール大会と和歌山県病院協会・和歌山市地区ソフトボール大会の2大会が開催されます。引き続き、応援よろしく願います」と意気込みを語りました。(済生記者 松元靖寿)

〈東京〉向島病院 地域で力を合わせる 34回目のフードパントリー

9月13日、当院で34回目のフードパントリーを開催しました。毎回、予約受付を開始すると30組の予約枠がすぐに埋まってしまい、枠を増やしてほしいとの要望をいただくこともあります。予約殺到の理由は、墨田区北部地域では当院のみが行なっている取り組みだから……だと思っていました。利用者さんから「支援品の量と生鮮野菜が他にはない魅力」との声もあり、とてもうれしいことです。霧下そば本家、コープみらい、食支援包括ネットワーク「ごっつあんすみだ」、墨田さんさん



会、セカンドハーベスト・ジャパン、ネットス、バナソニックファーム(敬称略、五十音順)などの地域の企業・団体の協力のもと、たくさんの方が力を合わせて開催しています。これからもがんばります！(済生記者 加藤建志)

福岡総合病院 フィールドワークでCS向上を学ぶ

9月3・4日に千葉県浦安市で開催されたヴィジョナリ

命の一つと考えています。今回は、循環器のカテーテル検査、看護師の点滴や包帯法、さらには臨床工学技士のカメラ操作など、医療の現場で行なわれるさまざまな作業を子どもたちに体験してもらいました。このような体験を通じて、子どもたちが医療の仕事により深く興味を持つことを心から願っています。(済生記者 掛川千恵子)

静岡済生会総合病院 認知症になっても安心に

9月の「認知症月間」に合わせ、プラモニユメントのライトアップや院内イベントを実施しました。

9月19日には病院正面玄関で、認知症への理解を深めてもらうことを目的に来院者向けの啓発イベントを開催し、約50人が参加。ポスター展示やリーフレットの配布、簡易的な物忘れチェックなどを行ないました。また相談窓口には認知症の家族への対応方法や、ご自身の認知機能認知症が疑われる場合の受診先など、さまざまな相談が寄せられました。



当院では昨年6月に認知症ケアチームを発足。認知症マップの活用や院内デイケアを実施しながら、認知症の方が安心して過ごせる療養環境の整備に取り組んでいます。今後も、認知症になっても暮らしやすい地域、安心して入院できる病院を目指して活動を続けていきます。(認定看護師室主任 赤堀照美)

〈大阪〉茨木病院
心を癒やすピアノの音色

9月11日、当院エンタランスでピアノ演奏会を開催しました。昨年に続き、今年もピアノリストの内田友咲さんが美しいメロディを奏でました。

会場の設営には病院ボランティアの皆さんにも協力いただき、アットホームな雰囲気の中、コンサートが始まりました。クラシックから現代のJ-POPや懐かしの童謡まで、幅広いレパートリーの全11曲が会場に響き渡りました。また、アニメソングが聞きたいという観客からのリクエストに応え「機動戦士Gundam GquuuuuX」の主題歌「Plazma」も演奏していただきました。

会場には入院患者さんやボラ



ンティアさんなど約30人の観客が集まりました。皆さん内田さんの演奏に耳を傾け、癒やしのひとときを満喫しました。

（済生記者 中村友香）

新潟病院

給食を患者さんのもとへ！
災害に備えリレー配膳訓練

9月26日に防災・災害対応委員会「給食用エレベーター停止時の対応」をテーマに研修会を行ない、看護師・MSW・事務員・DMATの約20人が参加しました。

昨年元日の能登半島地震発生時、当院では給食用を含むエレ



ベーター全機が停止。病棟内に配膳車を運び入れることができず、当院のDMATや各部署職員の協力を得て、当日の夕食をリレー方式で配膳しました。

研修は「震度4の地震が発生したものの施設に大きな被害はなく、食事は提供できる」という想定で実施。7〜10階の間でリレー方式での配膳を練習しました。

当院は10階建てで、厨房は1階で病棟は9階まであり、配膳には多くの人員や労力が必要です。災害時の人員確保の課題はありますが、いつ起こるか分からない災害に備えることができました。

（防災・災害対応委員会）

委員 櫻井健二

〈岩手〉北上済生会病院

情報伝達から避難まで
実践重視の防災訓練

北上消防署の指導のもと、10月2日に当院で秋の防災訓練を実施しました。今回は2部構成で行なわれ、合計約200人が参加しました。

第1部はLINE WORKSを活用した災害時の情報伝達訓練。

岩手県に大雨特別警報が発表され、災害対策本部を設置した後、全職員を招集するために各職場長が職場員への招集連絡をするという想定で訓練を行ないました。

第2部は火災を想定した避難訓練。トリアージタグの使用や、歩行困難な患者を担架で階段から搬送する訓練など、職員一人ひとりが災害時の役割を確認しながら真剣に取り組みました。今後も自然災害に備え、地域の防災拠点として住民の安心につながる訓練を継続していきます。

（広報企画室主任 岩城 達）



東神奈川リハビリテーション病院

電動車椅子サッカーの
魅力を実感

9月20・21日の2日間、神奈川県立スポーツセンターで開催された「横浜F・マリノスカップ 第20回電動車椅子サッカー大会」に、当院から医療班とボランティア合わせて19人が参加しました。

本大会は、電動車椅子サッカーの認知度向上と普及を目指す目的で開催。当院もこの目的に賛同し、大会運営の支援に携わりました。

当日は、医療班の医師・看護師が負傷者の応急処置を行ない、



大会の円滑な運営に貢献。また、各チームのサポーターとして周辺業務を支援し、選手たちや関係者の負担を軽減しました。休憩時間には電動車椅子試乗体験が行なわれ、選手たちの高

度な操作スキルに感激。初めて電動車椅子サッカーを観戦する参加者からは「スポーツとしての魅力を実感でき、楽しかった」との声も寄せられました。

（済生記者 濱崎啓師）

〈福井〉老健ケアホーム・

認知症普及活動で協働

福井あずま包括支援センター主催のもと、近隣の他事業所と共同で9月26日に地域のスーパーで実施した「福井市認知症普及活動」に、職員3人が参加しました。この活動は、認知症理解を深めるための周知活動で、毎年実施しています。

当日は認知症のパンプレット80人分を配布し、認知症の理解を深めるための情報を地域の皆さんに伝えました。参加者からは「具体的な情報を得られた」という声が聞かれ、この活動の価値を改めて感じる事ができました。

来年度も、他事業所の皆さんと協力して、同様



山形県済生会チームA・Bアベック優勝!!

山形県済生会

9月15日、第43回東北・北海道ブロック親善ソフトボール大会が岩手県花巻市で開催されました。当日は秋の訪れを感じられる絶好のコンディションで、熱戦が繰り広げられました。

山形県済生会チームAは、全国大会出場を懸けて戦うAプロ



ツクのリーグ戦で3戦全勝して優勝。ライバルと目された〈北海道〉小樽病院との対戦では緊迫した投手戦が続く中先制し、相手チームの反撃もソロホームランのみに抑えることができた。

一方でチームBは、Bプロツクのリーグ戦で2戦全勝して優勝し、Aブロック昇格を決めることができました。

来年度の大会は地元開催で、山形県済生会の2チームがAブロックで全国大会出場を目指して、鏖戦を削ることになります。

(山形済生病院 総務課

丹野治直)

新潟県中央基幹病院 キャラクターを職員公募！ 親しみやすさで病院PR

開院2年目を迎えた当院では広報担当が企画し、より多くの方々に親しみを感じていただけるよう、病院キャラクターを職員公募で決定するイベントを実施しています。

8月25日～9月30日の期間で

職員から作品を募集し、10月8日～22日の職員投票により全9作品の中から最優秀作品を選出します。選ばれたキャラクターには今後の広報活動において、当院のシンボルとして活躍してもらう予定です。

集まった応募作品には、名前や好物、性格などの詳細なプロフィールが設定されたものも。ユーモラスなキャラクター設定に、思わず笑みがこぼれる職員の姿が見られました。

来月以降の本誌で、見事最優秀作品に選ばれた病院キャラクターをご紹介します。どうぞご期待ください！

(済生記者 渡邊真衣)



〈山口〉下関総合病院 新入職員をビールで歓迎

9月26日、シーモールパレスで当院互助会による新入職員歓迎ビアパーティーを開催しました。COVID・19流行によって一時は中断したものの、昨年に引き続き2年連続の開催。全



職員のおよそ3分の1にあたる298人が参加しました。

開催に先立ち、森健治院長と佐野史歩医師(互助会理事長)が「厳しい医療情勢が続くが一丸となって頑張ろう」「そのためにも今日は大いに盛り上がるう」と挨拶しました。

カラオケ大会では、最初はエントリが少なかったのですが飛び込み参加が相次ぎ、最終的



に10組が熱唱しました。参加者の意外な一面を垣間見る場面もあり、会場は大いに盛り上がりました。

(済生記者 安岡佳成)

〈茨城〉水戸済生会総合病院 救急医療への尽力が評価

9月24日、茨城県庁で令和7年度茨城県救急医療功労者知事表彰式が執り行なわれました。当院は救急医療機関として唯一表彰を受け、生澤義輔院長が表彰状を受け取りました。

茨城県の救急医療体制の整備や推進に功績のあった団体や個人を表彰するもので、今回は5団体32人に表彰状が贈られました。表彰式では大井川和彦知事から「皆さんの日頃の活動に深く敬意を表します」との挨拶がありました。

生澤院長は「今回の受賞は、2010年に救命救急センターとして承認されて以来、特にコロナ禍ではECMO(エクモ)が必要となる重症患者さん

を中心に引き受けるなど、茨城県央・県北の救急医療への尽力が評価されたもの。今後も茨城県ドクターヘリの基地病院、3次救急病院の役割をしっかりと果たします」と話していました。

(済生記者 今野正俊)

〈茨城〉神栖済生会病院 金沢義一院長が知事表彰

令和7年度茨城県救急医療功労者知事表彰式が9月24日に県庁で行なわれ、当院の金沢義一院長が個人表彰を受けました。この表彰は、救急医療体制の整備・推進に顕著な功績があった団体や個人をたたえ、体制の充実と発展に資することを目的



表彰を終え、金沢院長は「職員の皆さんの日頃の努力を代表して表彰をいただきました。この表彰は、県から当院への期待の表れであると受け止めています」と話しました。

(済生記者 江口裕紀)

topics



をよく目にしました。
昭和52年の第1回「文化祭」から何度か会場や名称を変更し開催され、47回続いた文化作品展も今回がラストとなりました。「どうして終わっちゃうの？」と惜しむ職員の声もありました。今後は中津医療福祉センターとして、新たな形で発展した催しができることを期待しています。
(済生記者 鈴木亜希乃)

返す患者さんがいて、家族は胃ろうを考慮している一方で、本人は「自分の口で食べたい」と希望している」といった、現場で実際に起こりうる事例をもとに、グループワークを実施。
研修を主催した臨床倫理コンサルテーションチームのメンバーが「各専門職の視点で意見が出て、多職種で研修する意義を感じた」というように、患者さ



〈滋賀〉守山市民病院 倫理的課題について 多職種で考える

7月から9月にかけて臨床倫理研修を実施し、多職種の職員延べ60人が参加しました。
研修では「誤嚥性肺炎を繰り返

勉強会では、参加した21人の医師・看護師・介護士がチームで連携しながら、「もしもの備え」として対応の流れをシミュレーション形式で実践して確認。経験の浅いスタッフも安心して参加できる雰囲気意識して、多職種が声をかけ合いながら学習しました。
救急カートの使い方、物品の配置や使用方法も丁寧に確認。新人からベテランまでの全員

〈三重〉明和病院 患者急変時の対応を学ぶ

7月29日、村田浩人副院長による急変時の対応と救急カート使用についての勉強会を実施しました。

んにより良い医療を届けたいという思いは共通でも、職種や立場によって視点や優先される価値が異なることに気づかされる場面もありました。
参加者からは「自分とは異なる考え方に触れることができた」「このような機会を継続的に設けてほしい」といった感想が多くあり、学びの深い時間となりました。
(済生記者 中嶋元香)



で知識と動きを共有し、「いざ」というときに誰もが冷静に対応できるよう、チーム全体でスキルアップを図っています。
参加者からは「急変時には一人ひとりが役割を理解して行動することの重要性や、DNARでも蘇生する可能性が高い『初見』などがあれば蘇生処置を行なう場合があることを学べてよかった」との声が聞かれました。
(副看護部長 堤 容子)



置き型社食で 働きやすい職場づくり

〈茨城〉神栖済生会病院

昨年8月から福利厚生の一環として導入した、置き型社食サービス「オフィス野菜」が1周年となりました。
院内にはコンビニがありませんが、品揃えや営業時間に限りがあるため、職員からの要望でサービス導入に至りました。カットフルーツや総菜など健康的な軽食が購入でき、職員からも好評です。

専用のレンタル冷蔵庫から商品を選んで専用アプリから代金を支払うというシステムで、職員の負担は一律100円、差額は病院が負担します。稼働状況は順調で、商品廃棄率も非常に低いという結果になっています。
職員からは「小腹がすいたときにちょうどいい」「夜勤の休憩中にも購入できて便利」との声がある一方、人気商品は売り切れてしまうことも。
小さな試みですが、業務の合間の息抜きなど働きやすい職場づくりの一助になることを期待



〈静岡〉川奈臨海学園 知ってほしい！里親制度

10月9日、児童養護施設である当施設は地域の皆さんに里親制度への理解と関心を深めていただくことを目的に、市内の商業施設で「里親相談会」を開催しました。10月は「里親月間」ということで、3カ月に一度実施している個別相談中心の形式とは趣向を変え、パネル展示や啓発品の配布などを通じて、制度の周知を図りました。

今回は商業施設内のセンターコートを活用でき、幅広い年代

〈大阪〉中津病院 文化作品展 最後の輝き

9月24～30日、第47回文化作品展を北棟2階エレベーター前で開催しました。

今年ならではの大阪・関西万博や夏休みの思い出写真の展示、見ているだけで癒やされるかわいらしい手芸・ハンドメイド作品、美しい絵画やサンドブラスト、書道クラブの皆さんによる書道作品など、出品者21人の43作品が展示されました。展示期間中は患者さんやご家族、職員が足を止めて作品を鑑賞する姿

の方々足を止めていただくことができました。啓発品を手渡ししながら、里親制度の概要や支援の仕組みを説明。190個配布し、多くの方に関心を持っていただけたと感じています。また、3人の方とじっくりと話すことができました。
この啓発活動が、里親制度をより身近に感じていただくきっかけとなり、地域の中で支え合う子育ての輪が広がっていくことを願っています。
(里親支援専門相談員 鈴木志穂)

創立90周年記念謝恩会 300人が節目を祝う

熊本病院



9月6日に創立90周年記念謝恩会を開催しました。当日は、連携医療機関やOB会の先生方（熊本）みすみ病院・熊本福祉センター職員など約300人が参

加し、90年の節目を彩る特別な一日となりました。

音楽部の「Saxophone Quartet」によるサクソクス四重奏に包まれて開場し、中尾浩一院長の主催者挨拶で開幕。続いて、来賓6人から心温まる祝辞を賜り、副島秀久支部長による乾杯の発声をもって祝宴が始まりました。会場は笑顔があふれ、当院のこれまでの歩みを振り返りながら、支えてくださった皆さんへ感謝の気持ちを伝えるひとときとなりました。

終盤には「100周年に向けて」をテーマにリブランディングCMをお披露目し、未来への展望を共有した後、OB会会長の謝辞をもって閉会しました。

（経営企画室 上野颯斗）

（埼玉）川口乳児院

建て替え前最後の運動会

9月22日、当院講堂で運動会が開催され、乳児クラス8人、医療ケアクラス2人、幼児クラス11人、そして職員15人が参加しました。

1部はハチの衣装に身を包んだ子どもたちの「ハイハイレース」。青空をイメージした布を



くぐり、ゆるやかな坂をハイハイで進む姿は、まるで小さなハチが冒険に出たかのようでした。

2部は幼児クラスの「くだもの狩りレース」。トンネルをくぐり、果物の衣装に着替えてダンスを踊りました。例年、緊張から固まってしまう子どもも多いのですが、今年は「よいいドン！」で元氣よく走り出す子どもが多く、職員一同驚きと喜びの声を上げました。

当院の建て替えに伴い、現在

の建物での運動会はこれで最後。新旧の思い出が重なる感慨深い運動会となりました。

（済生記者 大貫典子）

医療と救急隊のお仕事体験

9月15日、健康フェスタ「医療と救急隊のお仕事体験会」で未来の命を救うのは君たちだ！をイオン唐津店で開催しました。これは、子どもたちに医療や救急隊の仕事に触れてもらうことを目的に、イオン唐津店・唐津



市消防本部・当院の共催で企画したものです。

子どもたちは医療職や救急隊の制服に身を包み、内視鏡や腹腔鏡、心音の聴診、AEDなど



の体験プログラムに挑戦したり、佐賀県初導入となる最新型救急

車の乗車を体験したりしました。イオン唐津PR大使のはがゆきさんによる司会進行の中、唐津城の「唐ワンくん」、看護の日の「かんごちゃん」などのキャラクターも登場し、大盛り上がりでした。

総勢614人の参加があり、医療・救急に対する関心の高さを実感する一日となりました。

（医療福祉相談室長 梶原 順）

和歌山病院

広がる認知症マフの輪

9月18日、和歌山市にあるデイスサービスセンター十色が寄付用の認知症マフを届けに来院しました。

当院の認知症マフの取り組みについて地元紙に4月に掲載された記事を見たことをきっかけに、「自分たちにも何か協力できることがあれば」との思いで認知症マフの制作がスタートしたそうです。制作開始から数カ月で20個以上を制作。事前にアポイントまで取っていただき、この日、当院に提供していただきました。

十色の利用者さんは「自分たちが制作した認知症マフを使っ



てもらえることがモチベーションとなりました」と笑顔で話してくれました。

記事掲載以降、さまざまな団体・個人から認知症マフ作成の協力の申し出や毛糸の寄付の連絡が多くあり、すでに200個近くの認知症マフの提供をいただいています。

（済生記者 松元靖寿）

〔三重〕 松阪総合病院
リードレスペースメーカ
一例目を無事終了

当院はこのたびリードレスペースメーカ（Medtronic 社製 Micra AV2）を導入し、8月26日に無事一例目の留置を完了しました。



従来の経静脈ペースメーカは、リード線や皮下ポケット内感染、三尖弁逆流症など慢性期の合併症リスクがあり、感染症を生じた際は本体・リードをすべて抜去する必要がありますが、リードレスペースメーカはこのような合併症を低減できる画期的なデバイスで、高齢者や透析患者を中心に適応が拡大されています。

一例目の手術時間は従来の経静脈ペースメーカより短く、患者さんは留置2日目に退院。術後のキズの治りや腕の動きの制限といった、これまでの患者さんの心配事ありません。

岡山済生会総合病院
院内でロックコンサート
トークと歌声に拍手喝采

9月26日、〈東京〉中央病院1階フロアでロックバンド「BRAHMAN」「OAU」のボーカル・ギターとして活動するTOSHI-LOWさんのコンサートが行われました。TOSHI-LOWさんは本業の



傍ら、被災地支援を行なうNPO法人「幡ヶ谷再生大学復興再生部」も運営。医療物資が不足したコロナ禍には済生会グループに約1万枚のマスクと2千枚のガウンを寄贈してくれました（本誌2020年12月号、22年8月号・12月号参照）。本コンサートはその縁あって、筆者が発案し、中央病院の関係者の方々の尽力により実現したものです。

TOSHI-LOWさんの楽しいトーク、歌声に心温まる1時間——患者さんと病院職員の皆さんにご満足いただいたことは、フロアからの大きな拍手で伝わってきました。

（肝臓病センター主任医長 川上万里）

岡山済生会総合病院
「NO MUSIC, NO LIFE」
力強い言葉に応援されて

「NO MUSIC, NO LIFE」……旬なアーティストのモノトーン写真にこの言葉が添えられるタワーレコードの有名な広告。これを手掛けたのは、クリエイティブ・ディレクターの箭内道



彦・東京芸術大学教授です。〈東京〉中央病院でのTOSHI-LOWさんのコンサートに会場した箭内先生から、私は持参したタワーレコードのフリーマガジンにサインを頂戴しました。「NO川上、NO済生会」の言葉を添えていただき、決してそうではない私は赤面するしかありませんでした……が、その後、しみじみこの言葉をかみしめました。

毎日の業務は本当に大変……でも、どうぞ皆さん、〇〇に自分の名前を入れて「NO MUSIC, NO LIFE」の気持ちで、乗り切ってください！

（肝臓病センター主任医長 川上万里）

大白熱！ 小さな運動会

〈滋賀〉老健ケアポート栗東

10月14日、通所リハビリの利用者さん全員で「小さな運動会」を開催しました。利用者さんが手作りした「お手玉」を使い、紙コップに入れてリレーを実施。30人が三つのチームに分かれて競いま

した。運動会定番の音楽を背に、チームごとに鉢巻きをして、隣の利用者さんからお手玉が届くのを体乗り出して待ち構えたり、手元に届いたお手玉をどのよう

にパスすればスムーズかを工夫したりと、皆さん真剣に取り組んでいました。

また、接戦になると、お手玉の位置を確認しながら、持っていたコップを下ろして手をたたき、仲間を応援する姿も。ゴールの瞬間には、チームの皆さんで喜びを分かち合い、健闘を讃え合っていました。

利用者さんも職員も、ほんのひとときではありましたが、運動会気分を存分に味わい楽しみました。

（介護福祉士 青木裕未）

〈茨城〉水戸済生会総合病院
元気な声でワッショイ！

当院職員の子どもたちが通うなでしこ保育園では、9月27日に秋祭りを開催し、園児とご家族合わせて71人が参加しました。例年は夏祭りとして7月に行なっていました。今年、猛暑の影響を考慮し、暑さが少し和らぐ9月に開催時期を変更しまし

た。園児たちが元気におみこしを担いで「ワッショイ！ ワッショイ！」の声でお祭りがスタート。盆踊りを踊ったり、魚釣りゲームをしたり、秋祭りらしくお店屋さんごっこには秋を感じ

るサンマを並べたり……。特に人気があったのは園児の足型を使っ



た。皆楽しそうにうちわを作っていました。

ご家族そろって楽しそうな様子が見られ、保育士にとってもとても素晴らしい秋祭りになりました。

（なでしこ保育園園長 小川律子）

（なでしこ保育園園長 小川律子）

topics



夏の恒例行事、花火大会を8月26日に開催し、37人の入居者さんが参加しました。当日は猛暑でしたが、大型扇風機や冷却グッズの準備、開始直前までの施設内待機など、熱中症対策を徹底しました。

〈広島〉特養たかね荘こやうら 熱中症対策も万全！ 夏の夜を彩る花火大会

市認知症ケア推進センター「かけこまち七間町」によるVR体験と静岡済生会総合病院の認知症看護認定看護師による要介護高齢者の疑似体験です。
レビー小体型認知症のVR体験では、レビー小体型認知症の人が実際に見えている世界、日常の中で感じている混乱や不安を疑似的に経験しました。
要介護高齢者の疑似体験では専用の器具により身体の動きや見え方、聞こえ方に制限を加えることで、思うように動けない、見えない、聞こえないなどの不自由さを体験しました。
この研修での体験を生かし、入居者さんがより安心できる声かけやケアを提供していきます（介護サービス課 小池範和）



入居者さんを2班に分け、時間をずらして実施。前半はまだ空が明るかったものの、後半は瀬戸内海の景色が夕暮れから夜へと移り変わり、花火には絶好の雰囲気となりました。
各班とも最初は入居者さん一人ひとりに手持ち花火を楽しんでももらいました。職員がマンツーマンで付き添い、花火に着火するたびに「ワー、キャー」と喜ぶ声が上がりました（ほとんど職員の歓声だったのかもしれないが……笑）。
最後は皆さんに集まってもらい、吹き出し花火を披露。「来年の花火大会も予約します」と早くも次回開催を期待する声も聞かれました。（済生記者 佐藤 聡）



〈岡山〉特養憩いの丘 夜空に咲く華に涙

「秋華火2025」を10月3日に開催しました。より多くの利用者さんに楽しんでいただけるように、今年も暑い季節を避けて企画しました。
当日はあいにくの雨で少し肌寒く感じる中、花火が良く見える室内や軒下で利用者さんが暖かく鑑賞できるよう配慮し、約30人が参加しました。
花火が打ち上がるまでの間、職員が「鶴亀」仮装ダンスを披露。見事なダンスに利用者さんの笑顔が弾け、手拍子をして楽しんでいました。



しんでいました。また、岡山県済生会の森本尚俊支部事務局長の挨拶に続き、手作りの神輿を担いで練り歩き、雰囲気盛り上げました。
19時から約200発の打ち上げ花火が次々と夜空に咲きました。「よく見えるよ」「きれいじゃな」「この年になって、こんな花火が見れるなんて」と涙をこぼして喜ぶ利用者さんもありました。（済生記者 高田美貴子）

〈栃木〉宇都宮乳児院 甚平姿でわっしょい！

9月17日、当院共有ホールでお祭りを開催し、甚平に身を包んだ入所児25人と職員40人が参加しました。
お祭りはお神輿からスタートです。小さい子から順に担いでホールを回るのが、いつもと違う雰囲気になり、座り込む子が続出。担当保育士にお神輿よりも高く担いでもらって、なんとカノルマを達成しました。後半の大きな子たちは年長者の貫禄でしっかりお神輿を引っ張っていました。
手作りの縁日コーナーでは法



被や浴衣姿の職員が盛り上げました。子どもたちはたこ焼きに焼きそば、チョコバナナといった縁日メニューに「おいしい！」と満面の笑顔でした。
ラストは寄付でいただいた吹上花火50発。まだ明るい時間でしたが、子どもたちは窓越しに食い入るように花火を觀賞しました。（済生記者 大久保彰子）

〈静岡〉特養小鹿なでしこ苑 疑似体験で認知症を知る

9月18日、認知症について理解を深めるため、4人の外部講師による研修を行ない、職員14人が参加しました。内容は静岡

＼WEB掲載はじまりました！／

済生会 topics WEB

機関誌「済生」に投稿された topics から厳選した記事を発信中！

<https://www.saiseikai.or.jp/topics/>



〈愛媛〉小田老健ふじの園 5年ぶりに家族も参加

9月20日、当園食堂ホールで敬老会を開催しました。約5年ぶりにご家族にも参加していただき、参加者は総勢約60人となりました。

はじめに長寿者、卒寿・米寿の皆さんを表彰。続いてご家族と記念写真を撮影しました。今年も元気な皆さんをお祝いすることができ、皆さんも大変喜んでいました。



演芸の部では、職員有志が「スコップ三味線」を披露。練習不足でしたが、皆さんの温かい拍手があり最後まで演奏できました。そのほか、カラオケや剣舞、また「クイズ！私は誰でしょう？」では職員が幼少期のかわいい写真を披露しました。

コロナ禍で面会ができなかった頃の様子もスライドショーで見てください、最後に全員で「故郷」を歌って終了しました。また来年

もご家族を招待して一緒にお祝いでできればと思います。

（済生記者 岡田理沙）

〈愛媛〉小田特養緑風荘 長寿を祝いお菓子を楽しむ

10月6日、当施設の入所者さん28人、短期入所利用者さん4人、デイサービス利用者さん10人が参加して、敬老会が開催されました。節目のお祝いと感謝の意を伝える特別なひとときです。

長寿を祝う表彰式では、百寿、白寿、米寿の節目を迎えた方に對し、スタッフから手渡しで賞状を授与。利用者さんからの感



を願っています。

（済生記者 木下 英）

〈愛媛〉松山老健にぎたつ苑 賑やかちんどんで笑顔に

9月13日、当苑で敬老会の式典を開催しました。利用者さん80人、家族約30人の合計120人ほどが集まり、盛大なお祝いの会となりました。

式典では、山本昌也苑長から利用者代表に記念品と賞状を授与しました。演芸では、愛媛県を活動拠点とする賑やかちんどん「ガールズチンドンたまむしや」さんが来苑。華やかな着物姿のちんどん屋さんが登場し、アコーディオンや歌を唄いなが



謝の言葉に心から感動を覚えたスタッフも多かったです。

その後は、お菓子パーティーを開催。ケーキや綿菓子、チョコフォンデュ、饅頭から好きなものを選んで味わう皆さんの、楽しそうな表情と笑顔が会場を満たしました。

「おいしかった」「お腹いっぱい食べたよ」という声が響き、さらにお代わりをする姿を見て、敬老会の盛況ぶりを実感しました。

（済生記者 富岡優衣）

〈島根〉老健高砂ケアセンター 「お祭りマンボ」で 長寿を祝う舞！

9月25日に当施設3階認知症棟で入所者さんとスタッフ合わせて約20人で敬老会を開催しました。

ら会場を回ってくれました。皿回しや玉すだれ、歌や踊りなど、初めて見る演目に、皆さん目を輝かせて興味津々です。なんと利用者さんも皿回しに挑戦し、見事に成功！満面の笑顔を見ることができました。

式典終了後は、各フロアで利用者さんと家族が団らんする様子が見られ、終始に賑やかな一日を過ごすことができました。

（副主任介護福祉士 佐伯 悠）

長崎福祉センター

「長崎くんち」の演舞に涙

9月19日、特養の入居者さんとその家族を対象にした敬老会を行ないました。

当日は80人以上が参加し、会場の都合上、2部に分けて開催。特に盛り上がったのは長寿を祝う表彰式です。最高齢の107歳の方をはじめ、米寿4人・卒寿2人・白寿3人・百歳以上5人の皆さんを表彰しました。

ハイライトは、地元の伝統行事「長崎くんち」をイメージした職員の演舞。手製の傘鉦と龍踊り、会場は一瞬でお祭りの雰囲気。長崎ならではの「もっ



はじめに職員2人がソーラン節を踊り、続いて米寿、卒寿、最高齢の方の名前を読み上げて祝辞を述べた後、その方たちから一言ずつ言葉をもらいました。それから、職員3人が美空ひばりの「お祭りマンボ」をピンクの法被を着ながら披露しました。入所者さんからはアンコールをもらい、もう一回、お祭りマンボを踊りました。その際に



は職員をもう1人巻き込んで4人で踊りました。巻き込まれた職員は即興で踊り、会場は大爆笑。職員の祝う気持ちを込めた踊りが、入所者さんの笑顔を誘っていました。

入所者の皆さんが1日でも長く自分らしく長生きされること

でこーい、もってこーい」の掛け声が飛び交い、皆さん大いに楽しんでいました。

感動的だったのは、普段無表情で口数の少ない人が、この演舞を見て涙を浮かべていたこと。その光景に私たち職員も胸を打たれ、この仕事を通じて何かを提供できる喜びを改めて感じました。

（済生記者 川端 誠・

川瀬義博）



〈山形〉特養愛日荘 にぎやかに敬老祝う

9月11日、当荘の交流スペースで敬老会が行なわれました。今年も入居者1人につきご家族1人を招いての開催で、総勢18人の入居者さんが参加し、家族と職員と共ににぎやかに敬老を祝いました。

ちゃんちゃんこを身にまとい、記念品、賀詞、花束を受け取る皆さんの表情からは、少し照れくさそうでありながらも誇らしげな様子うかがえました。

賀詞贈呈後は長寿、百寿、白寿、米寿の代表者からそれぞれ挨拶をしていただきました。中締めの後、入居者さんと職員による「故郷」や「最上川」の演奏をBGMに、入居者さんとご家族の記念撮影を行ない、式典を締めくくりました。

ユニットに戻った後も、ご家族との談笑や写真撮影、お祝いのまんじゅうと一緒に食べ

るなど、和やかなひとときとなりました。

〔介護職員 狩野有香〕

〔福井〕特養聖和園

日頃の感謝を込めて
踊りと音楽で笑顔に

当園デイサービスセンターでは、9月17日と20日の両日、延べ約60人の利用者さんを迎えて敬老会を開催しました。会場となったデイサービスホールは華やかに飾られ、日頃の感謝を伝える温かな雰囲気に包まれました。

開会とともに職員による太鼓の演奏が始まり、迫力ある音色に皆さんじっと耳を傾けていました。続いて披露された花笠音



頭やよさこいでは、色とりどりの衣装と元気な踊りに自然と拍手が湧き起こり、会場は大いに盛り上がりしました。

最後まで穏やかに過ごされ、笑顔の多い一日となりました。

敬老を祝うプレゼント

〈奈良〉キッズランドひまわり

敬老の日にあたり、利用者さんの長寿を祝い、これからの健康を願うとともに、地域の中で歩む私たちの感謝を込めた会となりました。

〔済生記者 野尻 宗〕

9月26日、中病院の院内保育所「キッズランドひまわり」の子どもたち9人が敬老の日のプレゼントを持って、併設の老健シルバーケアまほろばを訪問しました。

「ようこそ！来てくれてありがとう！」と出迎えてくれた利用者さん2人にハイタッチをし



て元気にあいさつ。子どもたちは、手形を使って描いた「とな



りのトトロ」や、足形を使って描いた「ネコバス」の作品を利用者さんにプレゼントしました。作品を受け取った利用者さんは「かわいいね、元気が出たよ！」「わあ！ありがとう」とピースをして喜びを表現。子どもたちは少し照れながらもうれしそうな表情を見せていました。

世代を超えた心温まる敬老の日の思い出となりました。

〔奈良・中病院〕
済生記者 米井 悠



〔新潟〕特養長和園 久しぶりの家族団らん

9月10日に「敬老いきいき祭り」を開催し、入所者さんや短

期入所の利用者さん、敬老表彰の対象者8人の家族の皆さんが参加しました。

当日は、なでしこ青空保育園の園児による太鼓演奏とダンス、ボランティアによる大正琴演奏、職員によるギターの弾き語りなど、催し物が盛りだくさん。利用者さんは家族と一緒に行事に参加し、家族団らんのひとときを楽しんでいました。

園児の太鼓演奏には「かわいいねー！」との声が上ががり、会場はとても盛り上がりつつありました。

また、ボウリングやさかな釣りなどの縁日コーナーも設け、利用者の皆さんにはポップ焼き（黒砂糖風味のモチモチとし



た食感の細長いお菓子）、たこ焼き、ロールケーキなどの軽食と飲み物を提供。コロナ禍以降、家族を招待した初の敬老会は大盛況で幕を閉じました。

〔済生記者 布施優子〕



んを招き、金管バンド、フラダ
ンス、和太鼓、大正琴とバラエ
ティーに富んだ演目を実施。金
管バンドは地域の小学校有志の
子どもたちによるもの。大正琴
では昭和歌謡曲や唱歌の演奏に
利用者さん思わず歌い出して
いました。和太鼓への参加企画
も盛り上がり、フラダンスでは
色鮮やかな衣装で踊る姿に歓声
が上がりました。

また、恒例の表彰式では、98
歳、99歳、100歳の利用者
さん3人が表彰を受けました。
利用者の皆さんにはいつまでも
元気でいてほしいです。

催しを行なったボランティア
さんと、地域ボランティア「リ



ラの会」に心から感謝します。
(通所介護課 相談員 竹垣内一繁)

笑顔と涙の敬老式典
(滋賀) 特養淡海荘

9月16日、当施設で毎年恒例
の敬老式典を開催しました。今
年で賀寿を迎える14人(喜寿1
人・米寿11人・100歳1人・
104歳1人)の皆さんに記

元気と感謝でいっぱい!!
(静岡) 特養小鹿なでしこ苑

暑い夏が過ぎ去り、秋の涼し
さを感じるようになった9月13
日、当苑では敬老を祝い、そし
て日頃の感謝を込めて敬老会を
開催しました。

敬老会には米寿を迎えた7人
と施設最高齢の103歳の方
が参加しました。昨年発表され
た都道府県別健康寿命ランキン
グでは、静岡県は男女ともに全
国1位! 日本一の健康寿命県
であるといえ、入居者の皆さん



も元気いっぱいです。高齢の皆
さんがこれまで多くの苦勞をし
ながらつないできた毎日がある
からこそ、私たちの幸せな毎日
があるのだと改めて実感し、感
謝の気持ちでいっぱいです。

これからも皆さんとともに元
気で楽しく過ごしていきたいで
す。敬老の日、本当におめでと
うございます。

(介護サービス課 神谷 遥)



敬老会で迫力のだんじり

(愛媛) 西条老健いしづち苑

9月14日、入所
者の皆さんの長寿
を祝う敬老会を開
催し、入所者さん
約30人が参加しま
した。

当日は近隣地域
の青年団の協力で
より、3台のだん
じりを引き連れて
慰問に来てくれま
した。暑い中、だ
んじりのかきくらべや西条祭り
で馴染み深い伊勢音頭を代表す
る「祭りばやし」を披露した皆
さんに感謝します。かき夫の方
の力強い掛け声や勇壮なだんじ
りの姿に、入所者の皆さんも魅
了されていました。また、伊勢
音頭を手拍子に合わせて歌いな
がら、地域の方々とともに、皆
さんの健康と長寿を祈願しまし
た。

10月には300年以上の歴
史を誇る西条祭りが市内各所で
行なわれます。今回の敬老会で
本番ながらの威勢のいいだん
じりを披露してもらい、祭りの
日が一層待ち遠しく感じる、楽
しい時間となりました。

(済生記者 松岡奈保)



**〈山形〉 小白川ケアセンター
舞子さんと記念にパチリ**

9月18日、当センター内のデ
イサービスセンター小白川で長
寿を祝う「敬老会」を開催し、
35人の利用者さんが参加しまし
た。

当日は、百寿1人・卒寿2人・
米寿1人の長寿の利用者さんに
「健康祈願」「感謝」の意味を込
めたお祝いの手作りカードをプ
レゼント。上生菓子とお茶の時
間に続いて、メインイベントと
して「やまがた紅の会」のやま
がた舞子の皆さんに踊りや三味
線を披露していただきました。



華やかな着物の舞子さんに
皆さん感激の様子で、目をキラ
キラさせながら、その踊りにく
ぎ付けになりました。最後はか
つばれを一緒に口ずさみなが
ら楽しんでいました。

踊りの後は、ショートステイ
やサービス付き高齢者向け住宅
通所リハビリの利用者さんと写
真撮影し、皆さん大変喜んでい
ました。

(済生記者 岩城多香代)

**〈兵庫〉 ふじの里デイサービ
スセンター・つどい**

歌や踊りで歓声のうず

9月11・17日にデイサービス
で敬老祝賀会を行ない、各日30
人ほどの利用者さんが参加しま
した。

約5年ぶりにボランティアさ

〈埼玉〉加須病院 有事対応のE M I S 研修



9月19日、加須保健所主催により、当院講堂でE M I S（イミス）の研修が行なわれ、11病院と五つの行政機関から合計28人が参加しました。E M I Sとは、厚生労働省運営の広域災害・救急医療情報システムで、災害の際、医療機関の稼働状況など災害医療に係る情報を共有するとともに、被災地域での迅速かつ適切な医療・救護に関わる各種情報の集約・提供を目的としたシステムです。

当日は厚生労働省D M A T事務局の職員が、E M I Sの概要や利用するメリット、今年4月1日にE M I Sが刷新された際に、機能拡充した点などを紹介しました。

最後にD M A T隊員でもある当院災害対策室・奥野史寛隊員から新しくなったE M I Sの操作方法などの研修を実施。災害

時の情報入力や医療機関モニタの見え方を伝えました。
（済生記者 蓬田絵里子）

〈福島〉川俣病院 命をつなぐ方法を学ぶ



9月19日、伊達地方消防組合・南分署の救急救命士を講師に迎え、救命講習会を開催しました。事務部やコメディカルなど、普段心肺蘇生法に触れる機会の少ない職員6人が参加し、胸骨圧迫法やA E Dの使用法などを学びました。

講習会では、病院外で心肺停止状態の人を発見した場面を想定し、救急車到着までの対応を実践。2分間の胸骨圧迫は想像以上に体力を要し、交代の工夫

として向かい合って待機する方法も教えてもらいました。胸骨圧迫を途切れさせずに行なう重要性や、圧迫中にA E Dを貼る手順なども学び、参加者からは「時間が足りない！しかし有意義で大変勉強になった」「参加して本当によかった」との声が寄せられました。
（主任診療放射線技師 安齋洋之）

〈大阪〉野江病院 地域の学校でがん教育

当院は大阪府がん診療拠点病院として、地域の学校に講師を派遣し、がんに関する正しい知識の普及啓発に努めています。

今回、大阪市立旭東中学校（旭区）と大阪府立桃谷高等学校（生野区）からの依頼で、9月11日に旭東中学校2年生の生徒さんと先生約140人、24日に桃谷高校全学年の生徒さんと先生約200人を対象に、当院消化器外科・太田秀一副院長が、がんについての講演を行ないました。

50分間の授業の中で、がんについての正しい知識やがん検診の大切さ、治療法や予防の心得など、写真やグラフなどスラ



イドを使って分かりやすく解説。皆さん熱心に聞いていました。将来を担う若い世代が、がんについて正しく理解することで適切に行動し、地域の健康維持につながるよう、当院では今後もがん教育に取り組んでいきます。

〈愛媛〉今治病院 お仕事体験・健康相談会 過去最多364人来場

9月13日にイオンモール今治新都市で、お仕事体験・健康相談会を開催しました。今回は同



仕事を目指しているので頑張ります」という回答もありました。無料健康相談会では、貧血・血圧・血管年齢・骨密度の各測定のほか、今治保健所と初の合同企画を行ない、塩分チェックや喫煙による肌老化を疑似体験する「スモーカーズフェイス」も実施しました。

（済生記者 村上景助）

〈大阪〉吹田病院 がんと感染症の関係とは

9月27日、吹田市に隣接する摂津市で市民公開講座を開催しました。摂津市立コミュニケーションプラザの3階コンベンションホールを会場に、吹田市と摂津市



の近隣住民68人が集まりました。テーマは「小さいがん見つけた！がんと感染症の関係」が人を早くみつかるために知っておきたいこと」。中村晃和副院長兼がん診療支援センター科長を座長に、「ウイルス性肝炎と肝がんー肝炎が治っても定期健診は重要ですよー」から始まり、「胃がんで命を落とさない！ー知っておきたい検診とピロリ菌の正しい知識」ー「子宮頸がんの原因は感染？ー検診とワクチンであなたと家族を守る」ー「がんと食事 これってウソ？ホント？」の全4講演を行ないました。

参加者の皆さんは熱心に講演を聞き入っていました。
（診療情報管理課長 鮫島正俊）



時にイオンとの合同企画「まちのおしごと体験」も実施。22の行政機関・企業が施設全体で体験ブースを展開。相乗効果で過去最多の364人が来場し、とてもにぎやかなイベントになりました。

お仕事体験では、六つの職種を子ども（6〜12歳）向けに体験できるブースを設置。アンケート結果では「すごくおもしろかったです。将来は医療関係の

〔福岡〕飯塚嘉穂病院
医療現場を知ってもらい
医療機器開発を推進

10月1～3日の3日間、千葉県幕張メッセで開催された「メデイカルジャパン東京」に、飯塚病院・飯塚市立病院・当院の3病院で取り組んでいる「Iizuka medicalabo（飯塚メデイコロボ）」で出展しました。



飯塚病院、飯塚市立病院のスタッフと筆者(右)

7年度から3病院が連携して取り組んでいるもの。医療機器開発を目指す企業や研究者、学生などに向け、実際の医療現場を観察してもらうことで適切な医療ニーズを把握してもらうことを目的としています。

ブースを訪れた企業からは「実際の医療現場を知らないまま製品開発を行っていたので、ぜひ参加させてもらいたい」といった意見もいただき、医療機器開発に取り組む企業にとっても有用な取り組みであることを再認識しました。

（経営企画室長 春口勇介）

〔大阪〕泉尾病院
中学校でがん教育講演
医療の役割を伝える

8月25日、当院の廣田竜一がん診療推進室長が、大正西中学校の生徒約100人に「がん教育」の講演を行いました。

講演では、まず「がんとは何か」をテーマに、発症の基本的な仕組みや原因、手術・抗がん剤・放射線といったさまざまな治療方法について紹介しました。がんは早期発見が重要であること、日頃の生活習慣上の工夫



が予防につながることを強調。加えて、治療の過程で患者本人だけでなく家族を支える「緩和ケア」の取り組みについて取り上げ、医療が果たす役割の幅広さを伝えました。

今後も、地域の子どもたちが医療を身近に感じ、健やかな未来を描けるような取り組みを続けていきます。

（済生記者 高木明日美）

〔栃木〕宇都宮病院
身寄りのない人の支援を
事例を通して考える

6月18日、当院研修室で今年度の第2回中央ブロック連携会議を開催し、関連機関の専門職



場に直結する課題が挙がりました。また、高橋佐貴子司法書士からは複雑事例の背景、介護相談センターからは金銭管理を巡る現状報告がありました。

梅崎さんは「自分だけでは気

づけない視点を得られた」と振り返り、稲見一美地域連携課長（MSW）は「実務に生かせる

学びを共有できた」とまとめました。

（地域連携課 川田綾香）

ーションを考案したいと思っています。

（済生記者 富岡優衣）

魚釣りゲームで
大盛り上がり！

〔愛媛〕小田特養緑風荘

9月9日、新たなレクリエーションとして魚釣りゲームを開催し、利用者さん8人と職員3人が参加。ルールはシンプルで、磁石付きの竿と魚で釣りをし、一番多く魚を釣った人が勝者となります。

皆さん、どの魚を釣るかで悩むだけでも大いに盛り上がり、選んでも「カニが食べたいから、カニ釣ろう」「なるべく大きいのがええ、どれにしよう」とそれぞれの個性が光っていました。

中にはサメやクジラなどの大物を見事に釣り上げる利用者さんも。さらに、釣った魚をどのように調理するかという話題も飛び交いました。

「面白かった、また釣るぞ」「大きい魚が釣れてとてもうれしい」。皆さんの笑顔と活気ある姿を目にし、これからの利用者さんに喜んでもらえるレクリエ



10月10日、第109回済生会中津病院開院記念式典を大講堂で開催しました。川嶋成乃亮総長、志手淳也院長の式辞に続き、嘉門記念賞・各施設長賞・センター学会賞・中津同窓会賞・勤続5年職員賞の66人が表彰されました。また、新たな名誉職員の称号が10人に授与されました。

〔大阪〕中津病院
開院記念式典で66人表彰



表彰職員を代表し、嘉門記念賞を受賞した福山智子臨床検査技師が謝辞を述べ、最後は病院歌斉唱で式典を終えました。

職員食堂でも、開院記念の特別メニューで祝福。大阪・関西万博にちなんだ「世界一周プレート」が提供され、祝賀ムードを盛り上げました。

これからも中津医療福祉センターとしてさらなる飛躍を目指していきます。

（済生記者 鈴木亜希乃）

topics

〈三重〉明和病院
将来看護師になりたい！
 9月23日、イオンモール明和で「まちのお仕事体験」が開催されました。明和グループも松



調理の手間がかからない備蓄食品は、高齢者や単身男性の世帯から好評だったとうかがいました。
 今後も当院では災害への備えを万全にしながら、社会資源を無駄にしない取り組みを続けていきます。
 (済生記者 鵜飼健成)



阪看護専門学校とともに、看護師の仕事を経験できるブースを出展し、約100人の子どもたちが参加しました。
 本物のナース服に袖を通した子どもたちは、小さな白衣の天使に変身。聴診器と注射器の使い方を教わったり、真剣な表情で測定に挑戦したり、新生児人形を優しく抱っこしてお世話をしたりと、看護師の役割を楽しく学びました。参加した子どもたちからは「将来看護師さんになりたい！」といった声も聞かれ、未来の夢を見つけるきっかけとなったようです。



地域の未来を担う子どもたちの成長を応援する、素晴らしい一日となりました。
 (介護保険部門課長 姫子松俊弘)



創立60周年記念式典
 〈静岡〉障害児入所施設 伊豆医療福祉センター
 当施設は今年、創立60周年の節目を迎えます。済生会本部の松原了理事をはじめ静岡県済生会施設の関係者、静岡県健康福祉部長、在所地の伊豆の国市長(代理出席)、関係医療機関など多くの来賓を招き、9月20日に伊豆の国市山文化センターで記念式典を開催しました。
 現在、当施設は医療型障害児入所施設と療養介護事業の混合型施設として、静岡県東部地区の障害児者に対する医療福祉を担っています。
 静岡県健康福祉部長からは、「近年の障害福祉を取り巻く環境が大きく変化する中、静岡県と当施設が果たす役割について共に取り組んでいきたい」との祝辞がありました。
 式典後のシンポジウムでは、渡邊誠司施設長を含めたパネリストによる意見交換があり、約200人の来場者が熱心に耳を傾けていました。



他院の活動を知り刺激に
 8月30日、済生会MA会主催のオンライン勉強会を(栃木)宇都宮病院で開催し、全国の済生会病院から28施設88人が参加しました。
 本会は済生会研究組織として、医師事務作業補助者(MA)の実務能力向上や交流を目的に活動しています。
 当日は、宇都宮病院・副院長 兼泌尿器科主任診療科長・戸邊 豊総医師の教育講演に続き、戸邊医師と座長の新潟病院・診療支援室・木村雄介さんと(神奈川)横浜市東部病院・医療支援室・鶴見怜央さんによる対話形式でのセッションなどを実施し、活発な意見交換が行なわれました。
 今後もメーリングリストでの情報交換や年2回の勉強会開催など、施設間での横のつながりを大切にした活動を継続していきます。関心のある施設は本会事務局(宇都宮病院診療支援課)までぜひお気軽にご連絡ください。
 (事務局/宇都宮病院 診療支援課 鈴木美希)

災害時備蓄食品を寄付
 8月13日、災害時に備えて保管していた備蓄食品のうち、賞味期限が近づいた2246点をフードバンク滋賀に寄付しました。
 今回寄付した備蓄食品は1カ月もかからずに支援を必要とする世帯へ配分されました。フードバンク滋賀の担当者によると、アルファ米やレトルト食品など多彩な種類の食品がそろっていたことで、受け取った方々が大変喜んでいました。特に、

福井県済生会病院

AIや働き方がテーマ ワークアウトPJ中間発表

当院では病院全体に関わる課題をテーマに掲げ、各部署から選出されたメンバーが約半年間にわたり、問題解決や目標達成に取り組む「ワークアウト・プロジェクト」を毎年実施しています。

今年度のテーマは「生成AI活用」「多様な働き方の実現」



の二つ。9月30日、今年度のプロジェクトチームによる中間発表が行なわれ、約100人の職員が集まりました。

「生成AI」チームからは、Copilotを活用し済生会の魅力を院内外に発信する「ポスターコンテスト」や、AIとの協働を体験できる「Copilot体験会」の開催内容について報告。一方、「多様な働き方の実現」チームからは、400件以上の職員の声に基づいた働き方に関する課題の検討状況について報告がありました。

最終発表は、12月に開催予定の「済生会DAY」で行なわれる予定です。

(済生記者 橋本来林)

〈三重〉松阪総合病院

心不全の企業向け講演会

9月18日、辻製油株式会社の社員向けに「知って得する健康講座 心不全ってなんですか？」と題して、筆者が講演しました。同社は製油を通じてさまざまな事業を展開しており、我が家で愛用するドレッシングも同社製品であることに気づき、これも何かの縁だと感じました。

当日は50人ほどの社員が参加し、県外の支店にもWEB配信。心筋梗塞をはじめとする心疾患、さらにその先の心不全の発症をいかに予防するかという観点で講演・啓蒙活動を行なう



フルート&ピアノ合奏に 万雷の拍手！

福島総合病院

9月9日、当院の健診室で「ふくしん夢の音楽堂 presents アウトリーコンサート」を開催しました。このコンサートは、(公財)福島市振興公社ふくしん夢の音楽堂(福島市音楽堂)が「音楽堂に足を運ぶことが困難な人に対して音楽鑑賞の機会を提供する」という事業の一環で、今回お声掛けをいただき当院での開催に至りました。

演奏者は、フルート奏者とピアノ奏者のアンサンブルユニ



ット「Takano & Miyuki」で、全国各地の音楽祭やジャズフェスティバルで演奏活動をしています。クラシック以外にも「オー・シャンゼリゼ」や「情熱大陸」など普段音楽になじみのない人にも楽しんでもらえるような、親しみやすいプログラム構成でした。

入院患者さんを中心に40人弱が集まり、最後にはアンコールの拍手が鳴り止みませんでした。

(済生記者 齋藤有里)

〈神奈川〉横浜市南部病院

患者さんの安心のために

8月28日、職員を対象にした消防訓練を実施しました。リハビリテーション室で電子レンジを火元とする火災が起こった想定で、初期消火班、患者輸送班本部と各班に分かれて訓練を行ないました。

今回は、事務部各課代表者と火元のリハビリテーション技術部から選出された職員の合計約30人が参加。小規模の訓練でしたが、今回の学びを自部署の職員に共有することで、有事の際にも患者さんが安心して受診できる体制を整えています。



当院は災害拠点病院でもあります。日々の災害訓練がいざというときの患者さんの安心感となることを心にとどめ、今後とも病院の運営に努めます。

(済生記者 南川茉悠)

〈三重〉明和病院

医学生が院長と意見交換

9月18日、三重大学医学部医学科の1年生4人と富本秀和院長との意見交換会を開催しました。これは、三重大学と明和町、当院が共同し「地域医療の確保、地域への医師確保の定着」を目指して行なわれたものです。

医学生からは「高齢者医療の上で明和町ならではの対策は？」「特に地域医療に力を入



れている取り組みとは？」などの質問が挙げられ、活発な意見交換がなされました。

富本院長は「高齢者による認知症の問題や独居高齢者の増加などがあり、きちんと考えていかないといけない。患者さんが地域でどうやって幸せに生きていくか」など、済生会の理念を踏まえた話を展開。また、専門医制度についても触れ、自分の専門領域以外にも勉強する必要性を「誰一人取り残さない」という済生会の使命とともに医学生に伝えました。

(総務課長 山田範子)

topics

〈愛媛〉松山特養

ご利益大！ 圧巻の喧嘩神輿

10月7日は松山秋祭り。毎年10月5～7日に松山市内の各地の神社で一斉に行なわれる祭りで、当施設にも三津浜地区を代表する三津厳島神社より神輿と虎舞の渡御がありました。



松山秋祭りは、早朝から「もてこい」の掛け声とともに、神輿をぶつけ合う「鉢合わせ（喧嘩神輿）」が圧巻の光景です。神輿がぶつかることでご利益があるとされており、勇壮な鉢合わせが何度も行なわれます。鉢合わせを終えた神輿と神主さんが、神様の力で災いを吸収し、当施設の安全を祈禱。かき手の皆さんが神輿を持ち上げ練り歩く姿に、入居者さんから拍手と歓声が上がっていました。

「ご神徳を賜り、秋祭りを楽しんでいただきました。」
（事務 夏井理恵）

熊本病院

流通団地のイベントに出席

9月20・21日の2日間、熊本市流通情報会館で開催された「流通まつり2025」に流通キヤンピング」に出席しました。当日は当院予防医療センターと栄養部がベジチェック（野菜摂取測定）とBLS（一次救命処置）体験を実施し、隣接ブ



スでは熊本福祉センターがパンやクッキーなどの販売を行ないました。予防医療の普及啓発、済生会の認知度向上、10月11日開催の健康フェア「からだ健学祭」の広報も兼ねた出席で、済生会ブースには延べ約800人が来場。地域貢献の一環として大変有意義な機会となりました。来場者からは「健康について振り返る良い機会となった」などの感想がありました。

（予防医療センター 事業推進室長 深堀 賢）

〈北海道〉小樽病院

クリニックパスとは？ 聴講熱心に質疑も活発

10月8日、当院講堂で「クリニックパス大会」を開催し、職員29人が参加しました。参加者は熱心に耳を傾け、活発な質疑応答が繰り返られるなど、とても実り多い時間となりました。講師には、医療法人溪仁会手稲溪仁会病院の五十嵐美沙デー



タセンター師長を招き、「クリニックパスとは何か」という基礎から、同病院における苦労や課題も含めた実践事例について、非常に分かりやすく解説いただきました。質疑応答では、当院



が直面する課題への具体的な助言を求める質問が相次ぎ、旺盛な意見交換が行なわれました。講演後のアンケートでは「次回もぜひ五十嵐先生の講演を」「実践的で参考になった」との声が多く寄せられ、参加者の満足度の高さがうかがえました。今後のさらなるクリニカルパス推進に向けた確かな一歩となりました。

（広報室長 松尾寛志）

〈愛媛〉松山老健にきたつ苑 接遇マナーを学ぶ

コロナ禍以降、マスクの着用が当たり前となったことで、他事業所、利用者さんや職員同士のコミュニケーションが減り、連携がうまく取れない、またサービス低下の懸念、といった課題も見えてきました。こうした状況を受けて、当苑では9月19日と26日に「接遇・マナーを実践しよう」をテーマに全職員を対象とした研修会を開催、計108人が参加しました。講師は、公益財団法人介護労働安定センター愛媛支部でS・I・Cオフィス代表を務める河野久美子さん。介護の現

〈福岡〉飯塚嘉穂病院 バンド演奏で元気づける！

9月24日、当院の回復期リハビリテーション病棟と緩和ケア病棟で秋の演奏会を開催し、それぞれ約50人と約30人が集まりました。この演奏会は、長期入院中の患者さんを元気づけようと企画されたもので、医師やリハビリスタッフなどの有志によるバンド「K's music club」が演奏を披露しました。

当日は各病棟に Mrs. GREEN APPLE の「ライラック」など4曲を演奏。その後、関口直孝院長がサプライズで登場し、井上陽水の「少年時代」を熱唱。会場から声援が飛び交いました。続いて



加者の積極的な意見交換により、職員一人ひとりがホスピタリティマナーの重要性を深く理解することができました。〈介護課長 田尾敦彦〉

（経営企画室長 春口勇介）

〈東京〉中央病院
地域のまつりで健康促進

10月12・13日、当院社会貢献



推進委員会は芝公園・増上寺で開催された「みなと区民まつり」で、骨密度測定を中心とした健康セミナーを実施しました。

地域住民の健康意識向上を目的に、OLS委員会メンバー（医師、リハ職、看護師の延べ8人）が骨粗しょう症予防の重要性や生活習慣改善のポイントを分かりやすく解説しました。約400人が骨密度測定を行い、測定結果に基づいた個別アドバイスも実施。来場者から好評を博しました。

参加したメンバーも「若い人にも測定の機会を提供することで、検査について啓蒙ができてよかった」とコメント。今後も地域と連携し、予防医療の普及と健康寿命の延伸に貢献していきます。

きます。

（社会貢献推進委員会 本多拓也）

〈兵庫〉特養ふじの里
手持ち花火で夏の涼

8月から9月にかけて、数回に分けて西館2階ベランダで花火をしました。ゆったりとした空間で行なうため、全体で行なわず2〜3ユニットずつで日程調整。1回で20〜30人ほど、合計約65人が参加しました。

日中の暑さも和らいできた夕暮れ時、戸外で涼をとりながら、手持ち花火をして季節を感じてもらいました。

ベランダに出た入居者さんは「あゝ気持ちいいね。久しぶり

に外に出た」と喜んでいました。手持ち花火を開始すると「昔はよくやったものだ」と入居者さん同士で盛り上がりつつありました。これからの入居者さんに喜んでいただけるような行事を考えていきたいと思っています。

（西館介護課 介護主任 畠 和男）



載々

済生会の職員が寄稿した記事が、掲載された雑誌等を紹介します

現場でのCDEJの活躍を
密着レポート

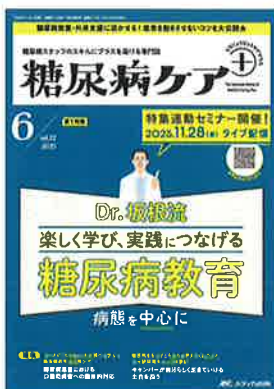
〈岡山〉吉備病院
藤井理学療法士

「糖尿病ケア+プラス」2025年22巻6号（メデिका出版）の「突撃！CDEJ密着レポート」に、当院

理学療法士の藤井祐貴さんが寄稿した。全国各地で日本糖尿病療養指導士（CDEJ）として活躍する医療スタッフにスポットを当てた連載コーナーで、今回は藤井さんがCDEJになった経緯や、運動のプロとして院外に向けて発信している活動

内容、さらに藤井さんの1日のスケジュールを密着レポート形式で紹介している。

藤井さんは糖尿病チームの一員として日々多職種と連携。理学療法士として運動療法や生活指導にも力を注ぎ、患者さんの生活の質向上に貢献している。勉強熱心で、常に新しい知識や技術の習得に努める姿勢は、若手スタッフのよき手本にもなっている。その誠実な人柄と熱意



は院内外からも高く評価されており、今後のさらなる活躍が期待されている。

（済生記者 難波美紀）

大雑報

身の回りで起きた、さまざまなことを楽しく報告するコーナーです。職場の話でも、家庭の話でも、休日の話でも、ご報告ください

済生会フェアが
「私の看護」の出发点に

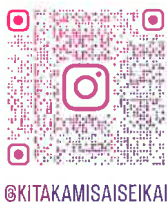
新入職の看護師から、転職のきっかけについて「昨年の済生会フェアに参加して、スタッフの人柄や地域への思いに触れ、ここで働きたい」と感じたんです」と素敵な話を聞く機会がありました。〈岩手〉北上済生会病院の魅力がしっかりと伝わり、それが誰かの人生の転機につながったことに感動しました。

入職後は、内科・外科の両領域を学べる環境や、「報連相」がしっかりと風通しの良い職場に魅力を感じながら、地域に寄り添う看護へのやりがいを実感しているそう。実際のインタビューの様子は、当院公式インスタグラムで公開しています。



彼女の転職のきっかけとなった済生会フェアは、内科・外科の両領域を学べる環境や、「報連相」がしっかりと風通しの良い職場に魅力を感じながら、地域に寄り添う看護へのやりがいを実感しているそう。実際のインタビューの様子は、当院公式インスタグラムで公開しています。

写真は昨年、私が見た千年あかりの様子です。花月川沿いや豆田町一帯に約3万本の竹灯籠がとまり、普段通勤途中に見ている景色がまるで別世界のよう。とても幻想的でした。



生会フェアは11月16日に開催。今年も誰かの新たな一歩を後押しできるよう、職員一同心を込めてお迎えします。

〈岩手・北上済生会病院 済生記者 掛川千恵子〉

★心温まるエピソードに元気をもらいました！フェア楽しみにしています。

（本部広報課 杉山菜央）

竹灯籠で日田の街が幻想的に

毎年11月上旬に行なわれる秋の恒例行事、「日田天領まつり」。江戸時代の情緒を残す豆田町を中心に、西国筋郡代着任行列やマルシェなど多彩な催しが行なわれます。

夜には、大分三大あかりの一つとして知られる「千年あかり」が同時開催。この催しは、竹の繁殖による杉やヒノキへの被害を防ぐ取り組みとして、2005年に地元有志によって始まりました。

毎年、県内外から多くの来場者でにぎわうこのイベント。皆さんも歴史情緒あふれる日田の街並みとあたたかな光の共演をぜひ体感してみてください！

（大分・日田病院 リハビリテーション部 言語聴覚士 岩田智子）



★幻想的な雰囲気伝わってきて、

（大分・日田病院 リハビリテーション部 言語聴覚士 岩田智子）

皆でタスキをつないで
フルマラソン走走!!

10月5日、福井放送（FBC）主催のリレーマラソンが芝政ワールドで開催されました。1周約1・8キロメートルの周回コースをタスキリ



レーして完走するといふもので、〈福井〉老健ケアホーム・さいせいの参加は3回目。今年は職員9人と職員の子ども1人の計10人でチームを組みました。

当日は終日雨が降り、ぬかるんだ路面と激しいアップダウンという過酷なコンディション……。ランニン

感動しました！竹の繁殖防止の取り組みも素晴らしい。

（本部広報課 大嶋 薫）

グを趣味にしている職員でさえ筋肉痛を訴えるほどハードなコースでしたが、タスキをつなぎながら励まし合い、フルマラソン部門（24周）を全員で見事走りきりました。

職員間の絆が深まり、施設の一体感が醸成されるこの取り組みには、来年も継続して参加する予定です。

（福井・老健ケアホーム・さいせい 事務係長 針原大輔）

★悪天候下でのマラソンはとても辛そうですが、完走後の達成感は格別ですね。皆さんいい笑顔です！

（メディカル・リーフ 紫村枝斗）

「昼間」に楽しむお月見会

9月21日、中秋の名月（10月6日）を前に、グループホームの入居者さんを対象にお月見会を行ない、入居者さん・職員合わせて38人が参加しました。

本来は夜、月を見ながら風情を楽しむものですが、昼食を兼ねたイベントとして、某チェーン店の卵を挟んだハンバーガーを月に見立てて楽しみました（お月見についてのDVDもちゃんと鑑賞しましたよ！）。おいしさもさることながら、フライドポテト等のサイドメニューを自身によるオーダー制とし、選ぶ楽しさや注文方法も体感してもらい大好評でした。



これまでも外出が難しい入居者さんにハンバーガーを購入してきて提供することはありましたが、今回、行事と組み合わせることで楽しい思い出に。引き続き生活面が充実するよう工夫していきたいと思っています。

（熊本・済生会グループホーム事業所 支援員 松川知明）

★お昼の「お月さま」をうつとりと味わいながら、秋の季節を感じられたことでしょうか。

（メディカル・リーフ 坂本陽子）

国民スポーツ大会での快挙！

パワリフティング全国2位
9月20日、滋賀県病院の小児科・中川亮佑医師が、栗東市民体育館で

すぎて良く分かりません。

（本部広報課 河内淳史）



絵画がつなぐ優しいご縁

5月8日、〈岡山〉吉備病院の通所リハビリに通っている須江さんと子さんのご縁により、地域で絵画教室を主宰する戸高次男さんから油彩画2点の寄贈がありました。

戸高さんは、須江さんが以前通っていた絵画教室の先生。「来院する方の心が少しでも癒やされますように」との温かな思いが込められたご厚意です。

力強さと繊細さを併せ持つ筆遣い



が印象的な作品は、戸高さんが新調した額縁とともに院内の廊下を優しく彩り、訪れる人の心に安らぎをもたらしてくれています。

（岡山・吉備病院 済生記者 難波美紀）

★素敵なご縁のおかげで、心が癒や

「ソーシャルインクルージョンの根付いた社会の実現を目指す」という使命を具現化するために生まれた済生会の公式キャラクター「さいせい」です！

詳細は二次元コードから見てね



開催された第79回国民スポーツ大会「わたS H I G A 輝く国スポ・障スポ」のパワリフティング競技に出場しました。

中川医師は開会式の選手宣誓という大役も務め、会場に熱気をもたらしました。同競技ではスクワット・ベンチプレス・デッドリフトの3種目の合計重量を競います。66キロ級に出場した中川医師は、スクワットで235キロ、ベンチプレスで152・5キロ、デッドリフトで252・5キロと、3種目すべてで自己新記録を更新。合計640キロという驚異的な重量を持ち上げ、全国2位に入賞しました。

試合後、中川医師は「これからも業務と両立しながら、さらなる記録更新に挑み続けます」と述べました。中川医師、本当におめでとうござい

ます！

（滋賀県病院 済生記者 鶴飼健成）

★写真のスクワット、例えば小学生1年生を10人担ぐということ!? 凄

記者魂 さいせいです！

済生記者の皆さん、いつも素敵な記事・写真を送ってくれてありがとう♡♡♡



さいせい、HAPPY♡

皆さんの記事のおかげで誌面がいつもにぎやか！うれしい！！

さらにさらに、素晴らしい誌面にするためのコツやテクニックを【次号】からお送りします！



🌟🌟🌟 マスコット・キャラクターとして皆さんに愛されている「さいせい」は、2年目のフレッシュな済生記者としても絶賛活躍中🌟🌟🌟

次号予告

済生 No.1158 [令和7年12月号]

済生会の不易流行論 (207) 炭谷 茂

NEWSな済生人

済生会交差点

この人 梅宮アンナ

口福にっぽん (99)

てづくりおもちゃ いまいみさ

されますようにの思いが伝わってきますね……。

（本部広報課 大嶋 薫）

小鮎の甘露煮を調理

9月18日に佐久地域の秋の風物詩「小鮎の甘露煮」を入居者さん6人と一緒に作りました。毎年の行事で、皆さん心待ちにしてくれています。

元職員の山浦末子さんの指導の下、醤油と料理酒を入れた鍋に生き



たままの小鮎を投入。すぐに蓋をしないと調味料が飛び散ります！

その日の昼食に、皆でさっそくいただきました。小鮎は丸ごと食べられます。「おいしい」「この味だ」「柔らかい」との声が聞かれました。

生産者が減り、手に入りづらい小鮎ですが、これからも残したい地域



社会福祉法人 財団法人 済生会支部
済生会川口乳児院

クラウドファンディングに挑戦中!

**ご寄付
のお願い**

第三目標金額
3,000万円

第一目標金額 **500万円** 第二目標金額 **1,000万円**

ここで暮らす子どもたちが、心から「安心できる」と感じられるように、私たちは、長年の願いだった建て替えを決意しました。

「いのちを守り・育てる」
それが愛された記憶になる

済生会川口乳児院では、生まれてすぐに保護された子や、家庭での養育が難しい状況にある子どもたちが暮らしています。安心して生活できる場所があること。泣いたときに抱きしめてくれる人がいること。そんな「あたりまえの安心」を、この場所ですごせるよう、私たちは日々寄り添っています。

しかし、建物は築四十六年を迎え、あちこちで老朽化が目立つようになりました。大人数で生活している現在のお部屋から、子どもたち一人ひとりがその子らしく、のびのびと暮らせるように、少人数でより家庭に近い環境をつくりたいと考えています。

2025年 **募集期間** 9/16 [火] ~ 12/12 [金] 23:00

資金使途 乳児院の建物老朽化による新院建築のため

川口乳児院 レディーフォー

<https://readyfor.jp/projects/saiseikaikawaguchinyujiin>

現金でのご寄付も受け付けております。
 済生会川口総合病院の窓口にお声がけください。
 済生会川口乳児院へのご寄付は、寄付金控除が適用されます。

お問い合わせ 社会福祉法人 財団法人 済生会支部 埼玉県済生会川口乳児院
 乳児院院長 やぎはし 八木橋 048-256-8500
 saikawa.nyujiin2@gmail.com

の伝統食です。
 (長野・佐久市特養シルバーランド
 きしの 済生記者 奥水由里子)

★生きたままの小鮓を鍋に投入!?
 ちよっと怖い気もしますが、甘辛い秋の味覚、とてもおいしそうです。
 (メディカル・リリーフ 吉村亜矢)

待ち時間を心穏やかに
 外来看護師の中山智子さんが、外来診察室の待合に絵本コーナーを作りました。本棚は院内で使われなくなったラックを再利用。絵本は中山さんが昔子どものために買っていたものの計41冊を自宅から持ってきてくれました。
 絵本コーナーは子どもの患者さんが多い耳鼻

科外来の近くに設置。日によって他の診療科の待合にも持ち出し、活用されています。
 実際に待合では子どもたちだけでなく大人も楽しみながら読んでいる姿が見られます。
 患者さんにとって診察までの待ち時間が苦痛の少ないものになってほしい——そう思い、絵本コーナーを作ったという中山さん。多くの人が利用する様子を見て「たくさんのお客様さんに喜んでいただけてうれしい」と話しました。
 (神奈川・横浜市東部病院 済生記者 荒木愛美)

★絵本コーナー、素晴らしい工夫ですね。私も読みたい絵本がたくさん！
 (本部広報課 杉山菜央)

済生会
 明治44年2月11日、明治天皇は、時の総理大臣桂太郎を召されて「恵まれない人々のために施療救療による済生の道を広めるように」との済生勅語に添えてお手元金150万円を下賜された。桂総理はこの御下賜金を基金として全国の官民から寄付金を募って同年5月30日財団法人済生会を創立した。

以来今日まで114年、社会経済情勢の変化に伴い、存続の窮地を乗り越えるなど幾多の変遷を経ながらも、本会は「施療救療」という創立の精神を理念とし保健・医療・福祉の充実・発展に必要な諸事業に取り組んできた。

戦後、昭和26年に公的医療機関の指定、同27年に社会福祉法人の認可を受け、現在、社会福祉法人財団法人済生会となっている。

職員数は全国で約6万7000人。

合計 404 (数字は令和6年度)
 さらに巡回診療船「済生丸」が瀬戸内海の57島の診療活動に携わっている。

総裁	秋篠宮皇嗣殿下
会長	潮谷義子
理事長	炭谷 茂
本部	東京 支部
診療所	83
介護医療院	20
介護老人保健施設	3
救護施設	1
児童福祉施設	25
老人福祉施設	116
障害者福祉施設	9
看護師養成施設	7
訪問看護ステーション	31
地域包括支援センター	67
地域生活定着支援センター	5
その他	9

②社会福祉法人 財団法人 済生会

済生会横浜若草病院が、緑豊かなリハビリロードの整備に向けて

ご寄付を募集中!

目標金額 600万円 2025年10月1日(水) 9時から 11月28日(金) 23時まで



社会福祉法人
思郷 財団 済生会横浜若草病院



「自分の足で、我が家に帰ろう」

横浜金沢での暮らしを、医療で支えたい

本プロジェクトへの寄付は、寄付金控除が適用されます。
WEBもしくは現金でのご寄付が可能です。 詳細はHPまたは裏面をご覧ください。

リハビリテーションは決して訓練を指す言葉ではなく、ご本人が自分の力で自分なりの生活を営めるよう、あらゆる手段を講じることです。そしてその中には、活力を取り戻すことと、他人と交流し影響し合う場が必要です。そのために、当院は緑豊かなリハビリロードをつくり、「その人らしい未来」へ一緒に伴走していきます。

しかし、私たちだけではこの事業を進めることができません。これまで、地域医療・福祉を担う当院としての責務を果たしていくため、緊急度が高い事案に予算を割り当ててまいりました。今回の改修は自助努力のみでは限界がありますが、必ず実現させたい、悲願のプロジェクトでもあります。そこで、クラウドファンディングへの挑戦を決意いたしました。

社会復帰に向けて頑張る方が、未来へ一歩踏み出すための場所をつくるため、ぜひ皆様の温かいお力添えと、激励をいただくと幸いです。
職員一同、ご寄付を心よりお待ちしております。

**プロジェクトの
詳細はこちら**

公開日よりご覧いただけます



※本プロジェクトはAll in方式のため、目標金額の達成の有無にかかわらず実行者は寄付金を受け取ります。 <https://readyfor.jp/projects/yokohamawakakusa2025>

インターネット上での手続きが難しい場合は、済生会横浜若草病院 事務局まで直接ご連絡ください。
TEL: 070-7363-0002 EMAIL: takagi.y@wakakusa.saiseikai.or.jp



READY FOR

済生会横浜若草病院 レディーフォー

